



2014.8.28-9.4

第7回台南市青少年訪問団

報告書

主催：公益財団法人 仙台国際交流協会



目 次

はじめに.....	1
実施概要.....	2
団員名簿.....	3
行程表.....	4
台湾の 1 週間.....	6
第 7 回訪問団 T シャツ作成秘話	14
活動班の紹介.....	15
みんなの感想.....	22
台湾サポーターからのメッセージ.....	43
同行者より.....	48
高雄市への募金について.....	49

はじめに

第7回の台南市青少年訪問団は、大学生31名及び同行職員2名が参加し、2014年8月末～9月初めの1週間にかけて実施されました。

今回は、南国台湾の中でも最も暑い時期ということで、体調を崩す団員が出るのではないかと心配しましたが、皆よく食べ、よく眠り、元気に過ごしました。奇美グループのみなさんや、学生サポーターのみなさんに念入りに準備していただいた濃密なスケジュールを精力的にこなすことができました。

また、前回初めて行った福祉施設でのボランティア活動に向けては、事前研修でアイデアを出しあい、準備を重ねました。ハンディキャップを持つ方々と一緒に、仙台名物ずんだをつくって食べ、ゲームを楽しみました。それぞれが自分の役割を果たして交流会を成功させ、施設のみなさんに喜んでいただいたことは、団員にとって貴重な経験となったようです。訪問団の目的の一つに、台南市民の皆様へ感謝の気持ちを伝えるということがあり、こうした場を設定していただいたことに感謝しています。

また、今回もホームステイを通じて、台湾の家庭生活を体験させていただきました。同じ世代のホストファミリーと一緒に過ごした1泊2日は、団員それぞれにとって忘れられない思い出となったようです。

先住民パイワン(排湾)族の村を訪問し、日本統治時代を含む歴史についての講義を受けたり、夜にはパイワン族の伝統的な方法で模擬結婚式を行ったりして、部族の伝統文化を学びながら、村の方と交流しました。翌日には近くの小学校を訪れ、子ども達と新聞紙で兜を作ったり、ゲームをして盛り上がり、言葉は通じずとも心は通じることを改めて感じていたようです。

奇美グループの方々が、季節等を考慮しながら、毎回、内容や訪問先を少しずつ変え、訪問団の滞在が一層充実したものとなるよう、ご配慮いただいていることに改めて感謝申し上げます。

最後になりましたが、今回も、事業実施にあたりご尽力いただいた奇美グループや財団法人樹谷文化基金会の皆様、お世話いただいた学生サポーターの皆様、ホストファミリーの皆様、その他、多くの方々に心から感謝申し上げます。

平成26年11月

公益財団法人仙台国際交流協会

台南市青少年訪問団について

仙台市と友好交流促進協定を結ぶ台湾の台南市では、東日本大震災の直後から、「送愛到仙台(仙台に愛を送ろう)」の名のもとに活発な募金活動が行われ、また、台南市に本拠地を置く奇美グループがスポンサーとなり、「復興を担う人づくりこそ経済的支援にも勝る最も確かな支援である」という考えのもと、3年間で約300人の仙台の青少年を台南に招待するプロジェクトが生まれました。

これを受け、仙台国際交流協会では平成24年2月の第1回訪問団派遣を皮切りに、6回の派遣で計177名の学生が台南市を訪問しました。現地滞在中は、奇美グループ職員の方々や、日本語を学ぶ台湾人学生のサポートを受けて、様々な交流事業に参加しています。

実 施 概 要

仙台市と交流促進協定を結ぶ台南市に青少年を派遣し、現地の青少年との交流や台南市内の見学、日本文化の紹介などを通して、異文化理解を深める機会とする。また、震災後にいただいた支援への感謝や、現在の仙台の状況を伝える機会とする。

1. 訪 問 先 台湾 台南市および近郊
2. 実施時期 2014 年 8 月 28 日(木)～9 月 4 日(木) 7 泊 8 日
3. 主 催 公益財団法人仙台国際交流協会
4. 協 力 仙台市
5. 後 援 仙・台友好交流促進協会
6. 参加人数 青少年 31 名、同行者 2 名
7. 募集対象 仙台市内にお住まいか通学する 18 歳～22 歳の方(大学・専門学生等、年齢は平成 25 年 4 月 2 日現在)で下記の条件を全て満たす方
 - 1 学生であること
 - 2 心身ともに健康であること
 - 3 日本国籍を有すること
 - 4 国際交流、異文化理解に関心があり、訪問団の趣旨を理解・賛同し、団体行動に参加可能であること
 - 5 定められた日程・旅行条件で参加できること
 - 6 東日本大震災での経験を踏まえ、台湾の方々に仙台の元気や、感謝の想いを伝えることができること
 - 7 事前・事後研修(全4回程度)に参加できること
 - 8 過去に仙台国際交流協会が主催した海外派遣事業に参加していないこと
 - 9 未成年者の場合は、保護者の承諾が得られること
8. 事前研修
 - 第 1 回 2014 年 6 月 28 日(土):訪問団概要説明、仙台市と台南市の関係について
 - 第 2 回 2014 年 7 月 19 日(土):「台湾の歴史と文化」の講義、高雄について、中国語レッスン
 - 第 3 回 2014 年 8 月 8 日(金):過去団員の経験談、日本文化紹介・交流会の準備、旅程確認
9. 事後研修
2014 年 9 月 13 日(土):訪問団の振り返り(グループワーク、感想発表)、報告書作成について

第7回台南市青少年訪問団 団員名簿

	名前	ふりがな	性別	所属	学年
1	石黒 利奈	いしぐろ りな	女	福島大学	1
2	伊藤 美由希	いとう みゆき	女	東北学院大学	3
3	氏家 由希子 (団長)	うじいえ ゆきこ	女	山形大学	1
4	大石 亜美	おおいし あみ	女	東北大学	3
5	小山 穂奈美	おやま ほなみ	女	東北福祉大学	3
6	梶谷 梨帆	かじや りほ	女	東北大学	2
7	木村 彩希	きむら さき	女	東北福祉大学	3
8	日下 純	くさか じゅん	女	尚絅学院大学	3
9	栗原 舞	くりはら まい	女	東北大学	3
10	小泉 湧多	こいずみ ゆうた	男	東北工業大学	3
11	佐伯 真実 (副団長)	さえき まみ	女	東北大学	1
12	佐々木 菜摘	ささき なつみ	女	宮城教育大学	3
13	下川原 真子	しもかわら まこ	女	宮城大学	4
14	白鳥 沙也香	しろとり さやか	女	東北大学	3
15	菅原 沙友紀	すがわら さゆき	女	東北福祉大学	3
16	鈴木 あゆみ	すずき あゆみ	女	宮城大学	3
17	鈴木 翔吾	すずき しょうご	男	仙台大学	3
18	高橋 唯	たかはし ゆい	女	東北学院大学	3
19	高林 佳稀	たかばやし よしき	男	仙台高等専門学校	4
20	立花 理砂	たちばな りさ	女	東北学院大学	3
21	蓼沼 阿由子	たでぬま あゆこ	女	東北大学	2
22	徳永 匡臣	とくなが まさおみ	男	東北大学	1
23	長岡 佑紀 (副団長)	ながおか ゆうき	男	東北大学	3
24	長瀬 華奈	ながせ かな	女	宮城学院女子大学	3
25	芳賀 真	はが ただし	男	東北福祉大学	4
26	兵藤 一真	ひょうどう かずま	男	聖和学園短期大学	2
27	古屋敷 美央	ふるやしき みお	女	宮城学院女子大学	2
28	堀籠 莉奈	ほりごめ りな	女	宮城学院女子大学	2
29	真壁 優	まかべ ゆう	女	仙台白百合女子大学	1
30	横字 史年	よこじ ふみとし	男	東北大学	1
31	吉野 日奈子	よしの ひなこ	女	宮城教育大学	1

男:8人、女:23人、14校

1	守 修一	もり しゅういち	男	(公財)仙台国際交流協会
2	川合 朋子	かわあい ともこ	女	(公財)仙台国際交流協会

行程表

日次	日にち	都市	移動手段	時間	行程	食事	宿泊先
1	8/28(木)	仙台	仙台空港	13:30	仙台空港 1F 3AB	各自機内	樹谷会館
		仙台-台北	飛行機 BR117	16:15発 - 18:55着	仙台空港⇒台北桃園空港		
		台北-樹谷園	専用バス	23:00頃着	桃園空港⇒樹谷会館		
2	8/29(金)	台南市	専用バス	8:00-8:30	朝食(樹谷会館)	○	樹谷会館
				8:30-10:00	学生同士の交流&樹谷の案内		
				10:00-10:30	移動		
				10:30-12:00	古跡-安平古堡		
				12:00-13:45	昼食 安平老街		
				13:45-14:15	移動		
				14:15-17:30	台湾茶道体験		
				17:30-17:40	移動		
				17:40-18:40	夕食(ショーロンポー)		
				18:40-19:40	移動		
3	8/30(土)	台南市	専用バス	19:40-22:00	台日交流パーティー		樹谷会館
				7:10-7:40	朝食(樹谷会館)	○	
				7:40-8:40	移動		
				8:40-10:00	烏山頭ダム		
				10:00-10:30	移動		
				10:30-12:00	菁寮地区(粽作り、雑草取り、街歩き)		
				12:00-13:00	昼食	○	
				13:00-14:00	移動		
				14:00-15:20	古跡-赤崁樓		
				15:20-15:30	移動		
4	8/31(日)	台南市/高雄市	各自	15:30-17:30	古跡-孔子廟		ホームステイ
				17:30	ホームステイ先へ移動	×	
				夜	ホームステイ		
				朝	ホームステイ先	×	
				昼	自由行動	×	
				17:00-18:30	高雄駅/台南駅に集合		
				19:00-21:30	花園夜市、夕食	×	
				21:30-22:30	移動		
5	9/1(月)	台南市	専用バス				原住民の村
				8:00-8:30	朝食(樹谷会館)	○	
				8:30-9:00	移動		
				9:00-12:00	施設でボランティア活動		
				12:10-13:00	昼食(樹谷会館)	○	
				13:00-14:00	移動		
				14:00-18:00	原住民の生活体験		
				18:00-19:30	夕食(原住民オリジナル料理)	○	
				19:30-21:30	原住民パーティー		
6	9/2(火)	屏東県	専用バス				樹谷会館
				8:30-9:00	朝食	○	
				9:00-12:30	原住民生活体験		
				12:30-13:30	昼食(原住民オリジナル料理)	○	
				13:30-16:00	原住民の小学校でボランティア活動		
				16:00-18:00	移動+休憩		
				16:00-18:00	移動		
				18:00-19:00	夕食(樹谷会館)	○	
				19:00-21:00	活動の感想交流・感謝カードを作る		
7	9/3(水)	台南市	専用バス				台北中僑ホテル
				7:50-8:10	朝食	○	
				8:20-9:00	大洲地区の見学		
				9:00-10:30	奇美博物館の見学		
				10:30-11:00	移動		
				11:00-12:00	海		
				12:00-13:00	移動、シャワー・着替え		
				13:00-14:00	昼食(樹谷会館)、交流会準備	○	
				14:00-17:30	お別れ交流会		
				18:00-19:00	出発準備、夕食		
8	9/4(木)	台北市	専用バス	19:20-20:00	移動		台北中僑ホテル
				20:19-21:38	台南駅→桃園駅	×	
					ホテルへ		
				6:00-7:00	ホテルから空港へ移動	○	
				10:05-14:15	桃園空港⇒仙台空港	機内	
				15:15頃	解散		

グレース、守、川合の3名は
高雄市政府へ爆発事故の義援
金を届ける。
9:50-11:00 移動(台南→高雄)
11:00-12:00 高雄市政府訪問

台南市青少年訪問団 報告書

台湾の1週間



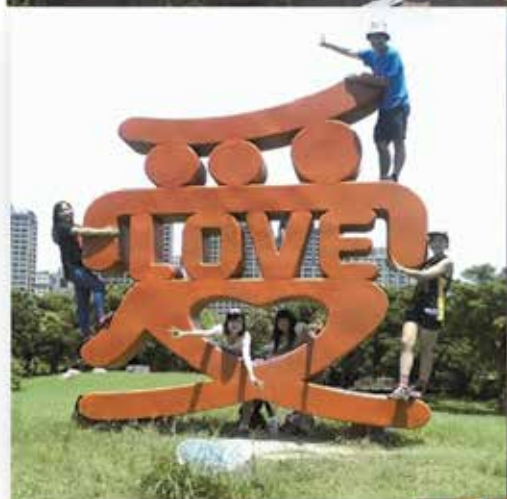
Day1, Day2

桃園の空港を一步出ると、夜だというのに一気に汗をかく暑さ。緊張と期待でいっぱいバスは樹谷会館へ。翌朝、台湾サポーターたちとご対面。古跡巡りと茶道を楽しみ、夜は交流会。台湾のハードな借り物競争と、グレースの容赦ない羽子板の罰ゲームにみんなびっくり。



Day3, Day4

八田與一が作った烏山頭ダムの見学の後には、台湾の伝統家屋でチマキ作りに挑戦。欲張って具を入れ過ぎると大変・・・そしてドキドキの一人一家庭のホームステイ。言葉は伝わらなくても、心は伝わるを実感しました。たった1泊2日なのに、信じられないくらい濃厚な時間。ホストファミリーとの別れはさびしかったけど、また台湾にくる理由が増えました。夜は楽しみだった夜市！珍しい食べ物がズラリ！



Day5, Day6

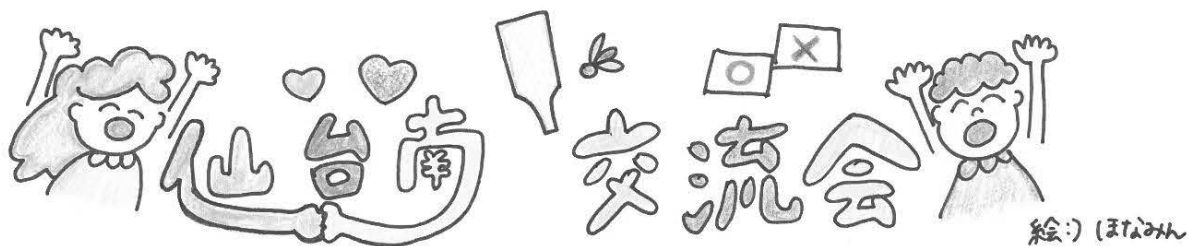
障害者施設のボランティア活動では、ずんだどら焼きを作ったり、長縄をしたり、サッカーをしたり。当日予定通りにいかないことも多々ありましたが、その場で代案を考え対応しました。午後は排湾族の部落へ。弓や槍の占い体験、入れ墨や石版屋などの伝統文化を学んだ夜は、排湾族スタイルの結婚式。おみ、きょんきょんおめでとう！ティディ衣装似合いですぎ！次の日は、原住民の小学校訪問。子どもは万国共通元気でかわいい！すぐに仲良くなりました



Day7, Day8

台南最終日、奇美財団が建設中で 2015 年にオープンする博物館を特別に一部見学させていただきました。とにかく広い！その後は海へ。初めは躊躇していたメンバーも、水をかけられ海に投げ込まれ、結局最後はビチャビチャ。夏らしい思い出ができました。午後はいよいよお別れ会。1 週間楽しすぎて、これで最後なんて信じられない！疲れはピークに達していたけど、みんなで過ごす最後の夜は台北のホテルで夜通し語りつくしました。台南、本当にありがとう！また会いにきます！





初日の朝。みんなが楽しみにしていた台湾サポーターとのご対面。いったいどんな人たちなんだろうとドキドキしながら待っているとそこに現れたのは……個性豊かな顔が書いてある紙袋を被った台湾サポーターではありませんか！まさかの登場に訪問団は驚きを隠せませんでした。はくりんがだすヒントを頼りに班のサポーターを当てるというなかなかレベルの高いゲームから学生交流会は始まりました。ヒントを言われてもわからないよ～！などツッコミを入れつつも、ヒントとインスピレーションを頼りに班のサポーターを当てました。最後まで当てられなかった1班のサポーターはなんとヒントをだしていたはくりん。これは当てられません（笑）

日本からは仙台を少しでも知ってもらうために、仙台に関する〇×ゲームを行いました。フィギュアスケートの発祥地は宮城である、穴があいた靴下をおはよう靴下というなど全部で5問出題しました。仙台と台湾どちらの人口が多いかという問題で不正解者が多く、にゃんちゅうこと兵藤君だけが勝ち残るという予想だにしないことが起きたので、急きょ台湾サポーターだけの敗者復活戦を行い、勝ち抜いたサポーターには景品として仙台銘菓のずんだや牛タン味のずんだお菓子をあげました。お互いに仙台のことを知ることができた交流会になったと思います。



学生交流会の夜の部は、台湾サポーター側のゲームで幕を開けました。トランプゲームではトランプが折れてしまうほどの白熱ぶりが見られ、部屋中に机を激しく叩く音とみんなの声が響き渡っていました。2班と6班の決勝戦では、手持ちのカードが少ない方が勝ちというルールで、2班のサポーターみおが持ってきた枚数はなんと136枚…！6班の圧勝でした（笑）二つ目のゲームは借り物競争。借り物の中には「髪の毛」

や「小石」など、日本ではまずリストアップされないであろうものがたくさんあり、戸惑いを隠しきれませんでした（笑）続いて、私たち日本側のゲームに移りましたが、時間がかかり押していたため、無地の羽子板にデザインをして談笑するという流れを省き、トーナメント方式での羽子板大会を開催しました。勝者が敗者の顔に落書きをするという罰ゲーム付きで行った試合は予想以上の盛り上がりを見せ、中でもグレースの落書きが容赦ないと話題に。気になる優勝者は…！落書き女王のグレースでした！日本の伝統的な遊びを台湾のみんなに紹介しながら楽しむことができて、とても良かったです。

交流会は担当だけではなく青年団みんなのおかげで無事終わることができました！（ほなみん）川合さん、守さん、訪問団、サポーターの皆のおかげで、楽しい交流会にすることができました。ありがとうございました。（シロ）

急に決まることが多くて大変なことが多かったですが、みんなが協力してくれたおかげで、最後までやり遂げることができました。ありがとうございました！（みんと）

次に羽子板大会をするときは、みんなでグレースに勝って顔に落書きをしたいです！（なっちゃん）

障 がい 者 施 設

今回の台湾訪問プログラムのテーマの一つでもあった「感謝」。その思いを伝えるための活動となったボランティアは、全体を通して有意義かつ刺激的なものであったと振り返ります。始めに、仙台の様子や仙台市民の元気な姿を撮影した「ハッピー動画」を流し、活気ある仙台の様子を伝えることが出来ました。



長縄は、施設の人にとっては少し難しかったため、思慮リンボーダンスを行いました(笑) 中国語で頑張れー!と皆で応援すると、楽しそうに長縄をくぐっていて、とても盛り上がりました!

特にモ屋外アクティビティとして行ったサッカーでは、開始当初では学生側に恥ずかしさや遠慮が見られたが、時間の経過とともに積極的なアプローチが多くなり、最終的には参加者全員が楽しめたと考察できた。さらに今後の様々な活動において、このボランティアの二次体験となった学生の成長には、大きな価値があったと思う。



ずんだどう焼チームは、餡と生地作りの2班に分かれて活動を行いました。実は、このずんだどう焼作りは多々予想外のハプニングに見舞われ、なかなか苦戦しました。しかし、餡・生地作り共にハンディキャップを抱えた施設の方のほうが、私たちよりも作るのが上手なのでは!?というくらいに早く丁寧に作業してもらったため、時間内に全員分のずんだどう焼を作ることに出来ました! 食べ終わった後に、「美味しかった」「お疲れ様」「楽しかった」とたくさんの方に声を掛けて頂き、感謝無量。達成感や充実感を得ることができました。施設の方との関わりを通して、コミュニケーションについて考えさせられることもあり、大変貴重な経験をさせてもらったと実感しています。

出発前に数回ミーティングし、台湾に着いたあとも夜に集まって話し合い準備を進めたものの、施設でのボランティアは当初予定していた内容通りには進まず、全体的にバタバタしてしまいました。しかし派遣団のメンバーやサポーターが臨機応変に対応してくれたおかげで施設の方々と楽しく交流することができました。暖かく私たちを迎えてくれた施設の皆様、協力してくれた派遣団メンバー・サポーター、関係者の皆様、本当にありがとうございました。



原住民小学校



かぶと

かぶと作りは、子どもたちと直接
触れあう最初のおそびでした。
言葉が通じない中、どうやって折り方を
伝えるのか（そもそも折り方を知らない
台湾メンバーもちらほら…笑）
一緒に作ったかぶとは喜んでもらえる
のか、など心配なことだらけでした
が、やってみると大成功!!
子どもたちとの距離が一気に縮
まった気がします。



小学生から

我がが小学校に到着すると、
空手と民族の踊りをミックスした
演技で出迎えてくれました。
民族の伝統的な歌を歌う
子どもたちの歌声は天まで届いた
言わば（笑）。



交流

ゲームをして遊んだ後、
お菓子を食べて自由におしゃべり
しました。みんなゲームで打ち解けて
いて、お互いに好きなお菓子を
あげたりして、とても和やかな雰囲気
でした。座ってお菓子を食べてながら
お話をしたり、鬼ごっこをしたり、とても
楽しい時間を過ごすことが出来ました。
小学生の子たちが喜んでくれて、
良かったです。



新聞大陸ジャンケン

新聞兜制作が終わり、皆と打ち解けた
ところで、最後に全員で新聞を使った
簡単なゲームをしました。
ジャンケンに負け、どんどん小さくなっていく
新聞とその新聞の上から落ちまいと
必死に耐えている姿は見ていて
笑えました。（笑）
最後まで残った優勝者には景品の
ジャカビーとプレゼント!!
とても楽しい思い出に残る時間でした!!

まとめ

新聞かぶと作りと大陸ジャンケン
が終わると、子どもたちと台湾・仙合
メンバーたちはすっかり打ち解けた
様子で、楽しい触れ合いが出来
ました。最後にみんなでやった鬼
ごっこが最も印象に残っています。
終始子どもたちのパワーに圧倒
されっぱなし（笑）元気をもらいました!
一緒にあそぶことに、言葉や文化
は関係ないです。

学生から

バスの中で何度も練習した
「世界に一つだけの花」
ダンスを交えて、楽しく
歌いあげました。



お別れ交流会



台南サポーターによるダンス!
台湾ダンスに加え、日本でも有名な
「女々しくて」を踊ってくれました!
みんなキレッキレ(笑)

1人1人サポーターへ感謝の
言葉! 心の込めたアルバム
もプレゼント!! サポーター
からのプレゼントも受け取り
別れのさみしさに涙、涙...
あぁ、帰りたくない!
まだまだ一緒にいたい...
抱き合ったり、写真を撮ったり
別れを惜しまました。



笑いあり、涙あり、
ロマンスあり!?!の
充実した
8日間でした!!!



Tシャツにメッセージを記入!
みんな伝えたい思いが
いっぱいです!



謝 謝 台 南

第七回台南市青少年訪問団 T シャツ制作秘話

デザイン担当 横字史年・氏家由希子

仙台市の代表として台湾に赴き歓迎される者が着用する T シャツ。それはいつまでも、この先に集まる時、もしくは皆で活動をするとき、第七期の一員としての参加した誇りを示す。過去六回にわたって、様々な想いのつまった T シャツが作られてきた。それに負けたくない。最初で最後の台南市訪問団参加にかけるみんなの想い。あの第七期だということを誇らしげにできるようなものがつくりたかった。

みんなの想いに共通する事柄は、互いに「感謝」、「友好」、「発展」の三項に絞られると考えた。

しかし、これら三つは互いに独立しており、一つの形に集約することは困難を極めた。しかし、そんなところでめげないのが第七期の輩である。

デザイン担当者には、はやりの「ゆるキャラ」なるものがどうしても理解できない。よって、それを作成すると自体が無謀だった。となれば、やはり、日台共通の「漢字」、これに頼るしかないと考えた。

しかしここで、漢字はそれこそ現地のお家芸ではないかと気付いた。日本人としてのアイデンティティを入れずして、どうして日本の仙台市からやってきたと示せるだろうか。そこで、日本独特の「ひらがな」を漢字に融合させてみた。二人の知恵を絞ったところ、なんとなくまくいって。

やはり、第七期は違う。氏家さんは私をそう感じさせてくれた。(のちに氏家さんは団長を務めることになる。)

これで、「夢」と「ありがとう」の感謝部分が完成した。

しかし、なにか足りない。

すると、ふと頭の中に、長きにわたる中華の歴史として、瑞兆といえば龍は欠かせないものと気付いた。「夢」が龍の姿となり、永遠と羽ばたいてゆく。そんなイメージが脳裏をよぎった。まさに「画竜点睛」の如く、ついに背面デザインが誕生した瞬間だった。(ちなみに締切をとうに過ぎていたことは言うまでもない。)

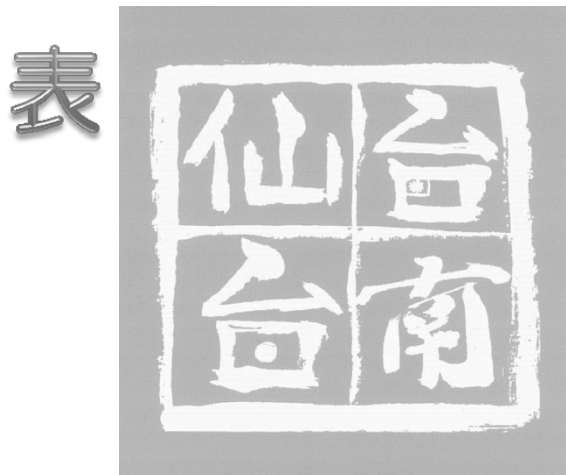
残すは互いの「友好」をあらわすだけである。「仙台・台南」、ともに「台」の字を持つ都市同士、なにかの縁があるとしか思えなかった。そして、四枠に区切った升目に各字をあてはめ、縦横どちらでも「仙台・台南」と読めるようにした。

データを川合さんに送った後、私はみんながこのデザインをどう思うのか不安であると同時に、これがこの世に生を受け、自分がそれを着用できることに興奮を隠せなかった。

……この T シャツがみんなにどのような評価を受けたかって？

それは、訪問団のみんなの写真の笑顔を見ていただけたら、いうまでもあるまい。

——またの再会を祈って 横字史年





1班

1班



寝顔のクマ
はいりん

ちび足
うーたん

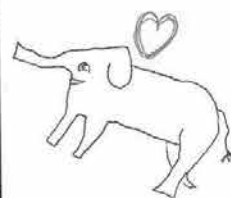
犬がこわい
たぞ

行方不明
おれ

笑ってごめんな
きんきん



画伯
おーちゃん



ショーロンポーがいちばん
おいしかった♡ 3段あったのに
あとという間になくなりました!!

世界上唯一の柏霖

作詞 Omi

台北到着 午後8時
桃園空港 迎えきた

アンピン タピオカ ショーロンポー
心臓病が弱すぎる

アザスとワロタを覚える
茶道体験 詞を訳す

夜市でハルクのストラップ
グリ推し 臭豆腐

我是 1班

途中で宿敵 せんちゃん登場
後半ほとんど せんちゃん通訳

我らが、アイドル、皆(みな)のゴハリン
LALALALA

ウォーシーファン ゴハリン



台湾の借り物競争は
超ハード...
いちばんおもしろかったのは
「ジェイソンのくつ下」ww
はいりんがダッシュしました



はいりんが1班のみんなにグリ推し
した臭豆腐 @花園夜市
写真を見るだけで独特のにおいが
フワッシューバック



おめがはいりん
流行りの日本語
教えてあげるよって
伝授した日本語は
いざす!!と
ワロタ!!w



お茶会ではハードルの高い
詩の通訳を一生懸命
してくれました!!
ありがとう♡♡
しかし後半はせんちゃん
に見せ場をばらしてました...



はくりん
サポーターのサポーター
&
1班のサポーター
として大活躍♡
お別れの時には
みんなに手紙と
おもしろいキーホルダー
をくれました!!

内輪ネタの多さ No.1!!

Group 2

～2班の全てを知るための 3つのポイントを紹介します～

- ① これなしでは 2班を語ることはできません!
「鳥山頭ダム (鳥山頭水庫)」



日本人の八田チーさんが作ったダム「鳥山頭ダム」ですが、ヨコジがほりごめを「ダム」と命名してから、2班には欠かせない大きな存在となりました。ダム(ほりごめ)の決めゼリフは「想變成水庫嗎! (お前をダムにするぞ!)」

注 ダムの大きさや豊かな自然に対する尊敬の念を込めた、ゼリです。



八田チーさんの
像と一緒に
ポーズを



- ② 台湾サポーター みおから おそろいのブレスレットをサプライズ!!



みんなの左手に注目～!! 5日目の朝のバスで、みおが2班のみんなに「あげるー!」と言ってくれた、手作りのおそろいブレスレット。これを着けて、絆がより深まりました♪ ヨコジは、腕が太くて入らなかった(?)らしく、1人だけ常にはずしていましたとさ。(笑)

「おそろい」ってだけでも十分嬉しいのに、みおが「フーフ」手作りしてくれたのも、さらに嬉しかったです。大切にします!♡

- ③ 個性の強いメンバーそれぞれから みおへ一言!



みおへ!
日本に帰ってきて、みおが恋しいぜ!!
また台湾遊びに行くからその時はまたよろしくね。というより、仙台に早くこーい!! (笑)



みおへ。
やほー!!! 台湾にこの声は届いてるかな? またみおの面白クコミ期待してるから、皆で集もうなー!!



みおへ
みおのおかげで、台湾すごく楽しかった!! 絶対また一緒に行くね。また2班で集まって鳥山頭ダムに行くね。

みお!
みおが2班のサポーターでほんとによかった! 笑いすぎて腹筋割れたぞ! みおみおにキラキラ素顔になるようにイタリア語がんばる!



みおへ!!
日本に帰ってから、ラインやFacebookでつながってる。突然でいいよ! でもやっぱり会いたい!! 今度は少しでも中国語で会話できるように、勉強がんばるねー!!



謝謝台南♡

この「つながり」を大切に。
また会う日まで! 再会!!

さこつさんぱん

ほなみ



お姉さんみたいなお母さんみたいな先生！
台湾の紫外線に打ち勝った戦友！
笑顔が素敵な3班のムードメーカーほなみん！
とにかく優しい！いろんな班の仕事率先して
行ってくれてありがとう。ほなみんの笑顔大好き！！

ひなこ



常に一緒にいすぎてもはや距離置きたい笑
台南に現れた仙台の小さな巨人！
チビで生意気3班の最年少ガールひなこ！
ナイスつつこみと癒されるかわいさ♡ひなこ♡

しよーご



お別れ交流会よかった！感動したね！
超良い奴。いや、バカ良い奴！
優しい3班のお兄ちゃんまさ〜！
夜市で荷物持ってくれたり、みんなのこと
まとめてくれてお兄ちゃんみたいでした

ながせ



カンカン帽がトレードマーク長瀬！
夏の台南に匹敵する明るさ！
3班の元気印◎飛行機大好き系女子代表！

ずみ



口説いてる！て言いまくってごめん笑
台湾を知り尽くした男ズミ！
鎖骨綺麗鎖骨綺麗鎖骨綺麗！
中国語話せてうらやましーいです。話術で
たくさん助けてくれてありがとう。

はるか



またわーわーぎやーぎやーやろう！
酒豪の頼れるリーダーはるちゃん！
臺灣名産鎖骨啤酒公司許總經理！
出会えてよかった！鎖骨綺麗〜はるか！
バスとかたくさん隣だったね。話すこと全て
面白かったです。面倒みてくれてありがと

また台湾行くよ〜♪



3日目は鳥山頭ダム！



JUMP ◎

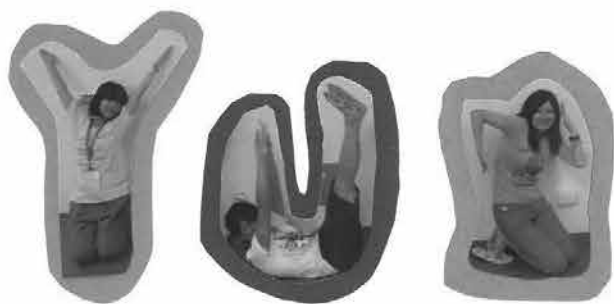


3ぱあ〜ん



3班のメンバーになれたこと、3班のみんなと活動できたこと、
何よりも3班リーダーはるか台湾で出会えたことが一番の思い出です。
これからも仙台と台湾の絆を深めていこう！
ありがとう、はるか！大好き！





TEAM TEAM 04

大石 亜美「こわいものなっしー」

- ・優しいと知性を兼ね備えた完璧女子 by ゆいね
- ・何でも食べちゃうアグレッシブ女子 by ゆうき
- ・華奢な体から雄々しい素敵女子 by ミント

長岡 佑紀「ソフトボイスロケット」

- ・プラスマワラスター系男子 by おしー
- ・とても頼れるリーダー! は少し左ミニン(笑) by ゆいね
- ・月読とけボイス男子 by ミント

古屋敷 美央「ミントジャンキー」

- ・天然消える系女子 by ゆうき
- ・いつでも冷静な日本女子 by おしー
- ・ミント色大好き! 光る個性がにみ出る
笑われ女子 by ゆいね

高橋 唯「crazy ゆうとうせい」

- ・心優しいお姫 by ミント
- ・女子力の生きるお手本 by おしー
- ・将来は女子アナ by ゆうき

4班王のサポーター

ゆうな

は、キライな食べ物が多くて、
思ったことがすぐ顔に出ちゃう。(笑) でも、
とても優しく、気づかいのできる女の子でした。
ゆうな自身も、初めての台南で不安なはずなのに、
いつも私たちを気にかけてくれました。マングーを
食べればディッシュを差し出し、暑いときはシートを
差し出し(笑) 烏山頭ダムでの通訳と初めとい
言葉の面でも心強いサポートしてくれました。
ゆうなのおかげで、とても充実した時間を過ごせ
ました。そして...忘れてはならない4班。
特に、これといって書くこともありませんが、
みんな大女子です。言射言射!!
仙台 ♥ 台南



5班メンバー紹介

かじ
めっちゃポジティブ

ゆうちゃん
癒し系努力女子



熱々の小龍包をお腹
いっぱい食べました！
謎の豆腐もあった😊

さゆ
お姉さん

ぱっしー
チャレンジャー

しんちゃん
天然で方向音痴

5班の思い出

5班はとてもマイペースな班で、毎回罰ゲームを受けていた班でした。古跡巡りではしんちゃんが一生懸命説明し、メンバーからの質問にも丁寧に答えてくれました。冬瓜茶や梅の老舗など沢山の美味しいお店にも連れて行ってもらいました。かき氷の有名店で順番待ちの時、集合時間ギリギリのところを巧みな交渉術により、ありつくことができました。花園夜市では鳥の足やコオロギ、臭豆腐にもチャレンジ!!

しんちゃんとお別れでは、みんなにお揃いのミサンガを貰い仲が深まりました(*'▽'*)



謝謝



ホズA いせんちゅうはどうしても
反対になっちゃう!!!



ホズB
6班ホズ!!! はじめてのホズグ😊
(かけ声ですぐにホズ★)

さくらからの
ありがとうお言葉

まいまい、じゅんじゅん、いっしー、
いせんちゅう!!! 知り合ってから
二ヶ月経ったな〜(笑)みんなが
集まったときに電話とかしてくれて
ありがとう! 6班のみんなは
忙しくて集まりにくいけど、それは
みんなが目標に向かって頑張る
証拠!!! 次は全員すごい人にな
って、ラーメン食べに行こう!!!
仙台でみんなに会うために
私も頑張るよー!!!



仙
台
南

ずっとつながる

ラーメン部結成しました!!!
うめめん6班王
サホーターさくらのもとに集まったのは...



新入部員
じゅんじゅん

- ・ロク?バク?
何ぞコイツ!?
- ・髪色七変化中
- ・とんこつラーメン食べ
こまかい小市民



部長
いんちゅう

- ・(自称?)イケメン
- ・実はボランティア精神(笑)
- ・変顔番長でもある
- ・とんこつ担当

副部長 まいまい

- ・自由
- ・脱日光☀️
- ・サッラの妹だす
- ・太麺派・油そば

台南支部 * さくら *

- ・ホームポイントはおけ前髪
- ・日本語がうまい
- ・おまの姉だす
- ・とんこつラーメン
を食した。(う、うやましい...)

会計 いっしー

- ・サベよんてき
(※年下けどじしかり者)
- ・「背すじピン!」が持ちネタ
- ・細麺王道担当

うーん...
くっさ... x x x

いろいろあったね
◆ 花園夜市 ◆
まずは腹ごしらえから夜また夜市巡り。
その代金は買い物のため★ 夢中になりすぎて
時間が足りなかったー!!!
☆ エピソード ☆
・一口食べて臭豆腐を全ておにぎりにつける
・消えたまいまい(迷子)
・自撮り棒買っ → 日本で大活躍

◆ 6班バナシ ◆
・おどろきのプレイス
(in 安平古堡) →
・アルバム作りで
いせんちゅう逃した
→ 不仲に!?
↓ 帰って来て... ↓
・行動力がついた。
・台湾がもっと好きになった。
◎ これからますますよく😊





- 1, 多文化主義的な一面
- 2, 手紙、キャップ(若い人)
- 3, 物価が安い!
- 4, コーロー
- 5, 若い世代から学ぶ姿勢



- 1, 親日であることが伝わるところ。
- 2, つばねの目撃リポート
- 3, 夜市の人の多さ!!
- 4, ものろいショーロンポー!
- 5, 自分の未熟さを知らずして。



- 1, 情熱的な台湾人
- 2, 特においし。
- 4, ピータン
- 5, 日本語の能力が向上してきていて、日本の友達もいらい出来て、喋り交流したりしてお互いの文化をより深く知ることが出来た。



はーん
MEMORY

- 1, 親切で優しい!!
- 2, tidyさん(笑)
- 3, 牛肉麺をビニール袋でテイクアウトして
- 4, ワビオカミルティー!!
- 5, 仲間の大切さを改めて痛感した



- 1, 人が優しい!
- 2, Tidyさん(〜)←
- 3, バイクの多さと速さ
- 4, ショーロンポー、マコー
- 5, 今いる環境の中から一歩飛び出して知る勇気のこと。大成功を実感したい。世界は広い!



ワ国王 Q & A

- 1, 台湾のココが素晴らしい!と思うところは?
- 2, ワ国で一番ブルンである人とは誰?
- 3, 台湾で一番ビックリしたことは何?
- 4, 台湾グルメは一番何が好き?
- 5, 台湾訪問を終えて成長できたことは?

ダークホース蜂の子！ 石黒 利奈



8月28日から9月4日までの一週間。日本はだんだんと涼しくなっている一方で、台湾はまだまだ夏だった。古跡巡り、茶道体験やホームステイ、夜市、ボランティア活動、原住民の生活体験、海など、朝から晩まで詰め込んであるスケジュールの中、非常に多くの体験をさせていただいた。ただ文字数が限られているので絞って書きたいと思う。一つ目はホームステイ。1日目は総勢6人で一緒に行動をした。夜、ホストファミリーの家に戻ってからは皆で夜食を食べながら話をし、このときに今回の訪問の目的の一つである、東日本大震災の際の支援に対するお礼、今の仙台の状況を伝えることができた。

二つ目は原住民の生活体験。パイワン族の村にお邪魔させていただいた。彼らは歌と踊りとお酒が大好きなとても明るい民族で、皆言葉が通じなくともジェスチャーを使って和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく過ごした。また、伝統料理はどれも美味しく、個人的におすすめしたいのは蜂の子である。口に入れるまではかなり抵抗があるが、食べてみると意外とまろやかな味だった。食べたことのない人には是非挑戦して欲しい。

私はこの研修を通して、人と人との繋がり、自分から発信していくことの大切さを学んだ。台湾の人々は日本人に対して本当に優しい。一日目の安平老街巡りで道路を歩いていたとき、後ろから走ってきた車にクラクションを鳴らされた。私達が広がって歩いていたから邪魔だと怒って鳴らしたのだろうと思った。しかし、その車に乗っていた男性は、笑顔で「ようこそ。」と日本語で言って去っていった。驚いたと同時にこんなにも歓迎されているのかと嬉しくなった。このような台湾と日本の友好関係を今以上に続けていきたいと強く思う。今はFacebookやLINEなどのSNSを利用して、気軽に海外の人々とも交流できる。私達若い世代が積極的に交流をしていくことが必要である。また、このようなプロジェクトをよく知らない人たちにも働きかける努力をしていきたい。謝謝！



マサルだらけの台南訪問

伊藤 美由希

台湾での1週間は、まるでとても長い夢のような時間でした。安平の町を歩いたことや、美味しいものを食べたこと、原住民パーティーで友人の結婚式（体験）に参加できたこと、海での投げ合いやオープン前の博物館など、書き出したらきりがありませんが、全てが新鮮で、本当に楽しくて、こんな

毎日がずっと続けば良いのにと願わずにはいられませんでした。実は台南市へ向かう飛行機の中で、台湾人女性に話しかけられお菓子を頂きました。この時から、この1週間は楽しくなると確信していましたが、実際は楽しいなんて言葉では言い表すことのできないくらい素敵な日々でした。もちろん楽しいだけでなく学ぶことも多かったです。感動の涙を流す場面もたくさんありました。

この1週間を終えて今強く思うことが2つあります。一つ目は、「ありがとう」をもっと上手に伝えられる人間になりたいということです。「ありがとう」、「謝謝」、「Thank you」など、感謝の言葉を口にするのは簡単です。しかし、感謝の気持ちを言葉以外で伝えることは簡単ではありません。今回関わったすべての方に、特に日本語が通じなかった施設と小学校の方々、ホームステイ先のご家族様に、私の「ありがとう」はどのく

らい伝わったのかな、と不安に思います。コミュニケーションを取るにあたり、大切なことは言語ではありません。ただ「伝えたい」という気持ちです。台南市の皆様と関わることで、言葉が通じなくたってこんなに楽しいんじゃない、と気づくことができました。言葉以外でも「ありがとう」を上手に伝えられる人間になることが私の新たな目標です。

2つ目はとてもシンプルです。みんなが大好きです。
ありがとうございました。

This is me ! That is Taiwan !

氏家 由希子



もう二度と起きてほしくないあの震災。何度も「加油！」と気持ちを届けてくれた台湾の人たちに「ありがとう」を伝えたくて、心を通わせたくて、どうしても参加しなかった今回の研修。必死のあまり、面接時に自分で言った事をはっきりとは覚えていません。ひとつだけ、「自分はリーダーに向いていると思います」と言ったから、台湾でやりたいことをやらせてもらえるから…有言実行したくなりました。理砂が背中を押してくれました。自分自身も周りのみんなも楽しい旅になるよう、できることがあればいいなと思いながら過ごした一週間…だったけど黒のハットをかぶっても、エンターテイナーにはなれませんでした。団長どころか、頼まれたことをやるがまま。皆に見守られ、僅かばかりの仕事の度に「団長お疲れさま」と声をかけてもらったのが嬉しくて、やっぱり私は私のままでした。

そんな中でも心に残っているのは、予定通りとはいかなかったボランティア活動です。たでちゃん達を中心に何とかしようとする31人がまさに“エンターテイナー”でした。大変だったけれど、障がい者施設でも小学校でもたくさんの笑顔に会えて、自分も楽しくなり「今、心が通っているんだ」と感じられてほっとしました。言葉は通じず、幾度となくつばさに、ゆうなに、カニに、通訳を頼みました。観光以上に「私は台湾に来たんだ」と感じた瞬間でした。嬉しかったけど、悔しくて。俊さんがいたからこそ、奇美の理事長さんにお礼を言うことができました。今度こそ、中国語や台湾語を勉強した自分で伝えてみせる。台湾のことは勿論、日本のことをもっと知っておこう。こうして出会えた台湾サポーター達にもステイ先の林ちゃんにも教えてあげる。これが私の決意です。台湾への熱意です。

7期の人々と食べて飲んで踊って、笑って泣いて歌って海に投げられた思い出を胸に、仙台と台南を結ぶエンターテイナーでありたいと思います。

変わらないもの

大石 亜美



今回の訪問団で初めて海外に行って感じたこと、それは国境を越えても「変わらないもの」が確かに存在するという事実だった。

「異国」、「異文化交流」などという言葉があるように、外国について考えるときどうしても母国と外国の異なる部分に着目してしまいがちになる。確かに今回訪問した台湾も、日本と異なる部分が多く存在した。トイレットペ

ーパーをトイレに流せないこと、見たこともないような食べ物がたくさんあること、借り物競争で、髪の毛10本集めることを指示されたこと（しかもそれは台湾の人にとっては当たり前であること…！）など、あげればきりが無い。

こうした異なる部分を知って、日本を相対化して見れるようになった。異文化に実際に触れ、トイレの文化の違いを知ったことで、私は日本の下水道の整備がいかに進んでいるものなのかを初めて知ることができたのである。

しかしこうした異なる部分以上に、私は日本にも台湾にも共通してある「変わらないもの」のほうに感銘を受けた。道端には雑草が生えていること、ちびっ子が愛らしいこと、街の人々が親切に接してくれることなど、こちらもあげればきりが無い。小さなことかもしれないが、「外国と日本の文化の違い」ばかり着目される中、どちらにも共通して存在するものが確かにあることを発見できたのが、私の中での一番の収穫であった。

現地の大学生のサポーターと一緒にしゃぎ、笑い、同じ時を過ごせたこと、しかもそのときの感覚が日本の友達と過ごしたときのものとあまり変わらなかったことは、きっとこの国境を越えても「変わらないもの」をお互い持っていたからなのではないかと思う。確かにお互いの文化の違いはあるが、「変わらないもの」も確かに存在する。たとえ国境を越えても同じ人間である。「国際理解」に必要なのは、この認識であると実感した一週間であった。

このような貴重な機会をくださった方々に心から感謝したい。ありがとうございました!!

Marimari！ 小山 穂奈美

第七期の訪問団として台南へ行くことが決まり、何よりも楽しみにしていたことは『原住民の小学校でのボランティア活動』でした。私は大学で学校の先生になりたいという夢を持ち、学校生活を送っています。仙台ではボランティア活動を通して子どもたちと関わったことはありましたが、台南・原住民の子どもたちとは言葉が通じない中でどうやってコミュニケーションをとっていかうかという不安とどんな子どもたちがいるのかという楽しみな気持ちがありました。小学校に到着すると、子どもたちが校門で訪問団を迎え入れてくれました。そして、子どもたちから歓迎の歌や踊りの発表がありました。子どもたちの歌声はとても力強く、いきいきしていて、心が熱くなり、自然と涙が流れました。台南で過ごした1週間は、ホームステイの家族とのお別れや施設ボランティア活動、スタッフとのお別れなどたくさんの場面で涙を流しました。その中でも子どもたちの歌声を聞いて流した涙は、自分の将来の夢への熱意を改めて確認する機会となるとともに、頑張ろうという気持ちを強く持つことができました。

子どもたちからの発表を終え、新聞を使った兜作りやゲームは子どもたちと直接関わることができました。表情にも気を配りながらジェスチャーでコミュニケーションを図りましたが、子どもが話してくれると読み取ることができず、何度もスタッフに通訳をお願いしました。言葉の壁は大きいことを改めて痛感しました。子どもが1度で読み取れなかった私にゆっくりと話してくれるなど配慮してくれたにもかかわらず、わからない自分に苛立ちと悔しさを覚えました。しかし、言葉の壁がありながらも元気に接してくれる子どもの姿をみて言葉よりも気持ちが大切だと実感しました。子どもに教わったことを忘れずに、台南での経験をさまざまな場面で生かしていきたいと思います。



文化の壁を超える絆

梶谷 梨帆



台南市青少年訪問団に参加したことで、たくさんのことに気付くことができました。初めての海外渡航ということもあり、目に映るもの、肌で触れるものすべてが新鮮でした。華やかで込み合った町の色、熱帯気候に近い空気、そして耳には聞きなれない言葉。日本にいただけでは感じることのできないものばかりでした。書きたいことが多すぎるので、この素晴らしい体験のなかで特に印象に残った2点を中心に述べたいと思います。

まず私にとってインパクトの強かった体験は先住民生活体験です。今までは文献や写真でしか分からなかった先住民の方たちと直接交流を持てたり、婚礼儀式的模擬体験ができてとても面白かったです。現代の排湾族たちは普段の衣食住生活は台湾人とほぼ変わらないけれども、容姿の違いや独自の言葉、伝統を持っていることがわかりました。また、訪問前までは中国人と台湾人は住む場所が違うだけで同じ言語をもつ同じ人びとだと漠然と感じていましたが、現地の人びとは自らを中国人とは別の台湾人であるという確固たる意識を持っており、私も帰国後はそのように捉えるようになりました。「民族とは何か」をよく考える上で大事な経験になったと思います。

そしてもう一つは、やはり現地の台南サポーターたちやホームステイ先の方々との交流です。中国語や台湾の生活に関する知識が乏しいことによる不安を忘れ、現地での生活をめいっぱい楽しむことができたのは言わずもがな彼らのおかげです。自分とは違う言葉や文化を持つ人びとも、心を通わせ本当の友情や絆を築けることが、誠のことだと感じることができました。震災の際の支援、高雄市のガス爆発事故への募金など、支えあうことに国境はいらないということを、今なら心の底から言うことができる気がします。国のつながりは個人個人の交友があってこそ現実味を帯びてくるのではないのでしょうか。現地での彼らとの交流が素晴らしかったからこそ、私は台湾が大好きで必ずまた訪れたいと思っています。このような機会を得ることができて本当によかったです。今回築いた絆をこれからも大切にしていきたいです。

言葉だけじゃない

木村 彩希

私は今回、台南市青少年訪問団の第7期の一員として参加させていただき、障害者施設と小学校でのボランティア、原住民の生活体験、ホームステイなど、多くの貴重な経験をする事ができた。これらの訪問団での活動を通して学んだことが2つある。

1 つ目は、コミュニケーションについてだ。私は中国語をほとんど話すことができず、中国語では挨拶程度のコミュニケーションを取るしかできない状況だった。しかし、中国語を話せなくても、ボランティアで出会った方々や原住民の方々と、共に楽しむことができていたと感じた。言葉が通じなくても、通じ合えることができたり、分かり合えることができたりしたことはとても嬉しいことだった。言葉のようなバーバルコミュニケーションではなく、ジェスチャーや顔の表情、笑顔などのノンバーバルコミュニケーションでも人と人は通じ合うことができる。どんな人とも関わり合いたい、わかり合



いたいという気持ちをもつことが大切になるのだと学ぶことができた。

そして 2 つ目は、文化についてだ。古跡を案内してもらうことや、原住民のダンスや歌と一緒にすることなど、活動の中で台湾の文化を学んだり体験したりすることができた。食文化の面でも、台湾名物や原住民料理、ホームステイでは台湾の伝統料理を味わうことができた。実際に自分の五感を通して経験することで、台湾の文化の良さや特徴を学ぶことができた。それと同時に、日本の文化との共通点や違いについて感じることもできた。

今回の訪問団の活動で学んだことや感じたことは、多くの人に伝えていけるようになりたいと思っている。私が将来の夢である教師になったとき、私の経験を伝えることで改めて日本の文化や伝統、異文化について考えたり何かを感じ取ったり、人との関わりについて考えることのできる機会となるよう、活かしていきたいと考える。

そして、訪問団では 7 期のメンバーやサポーターを含め、本当に多くの人々との出会いがあった。この出会いを大切にしながら、出会った人たち、そして台南と繋がり続けていくことができればいいと考えている。

謝辞、マリマリ、マサル、台南！

日下 純



振り返ってみると怒涛の 1 週間だった。朝は早く、夜は気付いたらとうに 0 時を過ぎている毎日でも、最後まで楽しく活動できたのは 7 期のメンバーと台湾サポーターがいたからだと改めて思う。

活動の中でもボランティアと原住民の生活体験は特に印象に残っている。ボランティアは障害者施設と原住民の小学校で行ったが、どちらも予定通りに進むことはなく、不安があった。小学校でゲームをしたとき、同じグループの子が間違ったルールで遊んでいた。それで

も楽しく遊んでいたが、本来のルールをジェスチャーを交えて教えるも、上手に伝えることができず、小学生から何か言われても笑顔で答えることしかできなかったため、歯がゆい思いをした。1 人で解決しようとせず、サポーターに頼ればもう少し状況が変わったかもしれないと後悔が残った。原住民では伝統的な料理や遊び、居住地を体験した。台湾には数多くの部族がいたが減少傾向にあり、文化や歴史が薄れていく現状を部族の方は悲しんでいた。後世に残すために伝統的な文化を守り続けているが、その保存活動に日本人が関わっていることを知り、ありがとうと言われたときは関わっていないのに素直に嬉しかった。日本にいたら知ることはなかった原住民の文化や歴史を実際にこの目で見て、肌で感じられたのは本当に貴重な体験だった。

全ての活動が私にとってプラスになることばかりだった。海外は行ったことはあるがアジアは初めてで、台湾の独特な文化は見ていて楽しかった。日本と近いためか、日本のアニメや夜市に日本語で書かれた日本食が売られていたり、あいさつ程度の日本語を使う人がいた。台湾に行かないとわからない文化や歴史に触れたことでさらに台湾を知りたくなり、何より訪問団とサポーターで作上げたたくさんの思い出と友情は私を成長させ、仙台と台南の関係が深まる架け橋になったと実感している。訪問団に参加した人以外にも訪問団の活動や台湾について伝えるために、交流の幅を広げていきたい。

キラキラ～有言不実行から有言実行へ～ 栗原 舞

今回の訪問団は私にとってたくさんのかげがえのない、素晴らしい出会いをもたらしてくれました。普段、有言不実行の私がこの訪問団に参加できたことが本当に奇跡のように感じます。この一週間を通して感じたこと、学んだこと、これからの人生で生かしていきたいことは本当にたくさんあります。そのなかでも特に印象に残っていることを挙げると、“言葉よりも気持ち”なのだという事です。今回訪問した台南、そして高雄で出会った多くの人々は本当に皆優しくて、言葉があまり通じなくてもお互いが分かりあおうとすることでつながることができたように感じます。日本では言葉が通じることがあたりまえで、それに甘んじて逆に伝え下手になってしまうことがあります。台南に行って“伝えようとする”ことの大切さを改めて感じました。この気持ちはこれからどこへ行っても忘れないようにします。

また正直言うと、この訪問団がこんなにも大変だなんて思っていませんでした。でもそんなハードな行程も、一緒に行った7期のメンバーとサポーターの皆がいてくれたからこそ乗り越えられました。今思うと、台南に行く前は数回しか会っていなかったなんて不思議な感じがします。皆との思い出はキラキラで楽しさや充実感でいっぱいです。いろんな学校から集まった31人ものメンバーでこんなにも怒涛の濃い一週間を過ごしたことはこれからも忘れません。そしてなにかを選択しなければならない場面になったときは、今回の経験を思い出してまた新しいことにどんどんチャレンジしていこうと思います。有言不実行から有言実行へ、自分の成長への大きな足掛かりになった訪問団でした。これからも今回のたくさんの温かい出会いを大切にしていきたいと思っています。キラキラな夏、かけがえのない夏、そんな夏を過ごせたことを、訪問団に関わってくださった全ての人に感謝します。



「ずっと居たいわん。ありがたいわん。台湾に帰りたいわん。」 小泉 湧多

私が台南市青少年訪問団に参加した理由は「震災時の支援に対するお礼を直接中国語で伝える」というものでした。しかし、結果としては台湾の方々から更なる元気を受け取ることにになりました。

台湾で過ごした一週間は毎日が濃いものでした。その中で思い出として強く残っているのはボランティア活動です。私は今までの人生でボランティア活動というものを避けて生きてきたような気がします。それは、行動を起こす勇気が無く、自分がやらなくても他の人がやってくれるという考え方をしていたためです。それゆえ、施設でのボランティアが初めての活動経験となりました。当初、施設での活動に不安が大きくありました。しかし、サッカーや日本の歌、仙台名物のずんだの試食などを通してお互いに楽しい時間を過ごすことができたと感じています。原住民の小学校で行われたボランティア活動では子供達と一緒に、新聞紙を使った折り紙と大陸じゃんけんというゲームをして遊びました。最初は子供達も緊張気味でしたが時間が経つにつれて笑顔が増え、中国語で冗談の言い合いができるようになりました。ゲームが終



わると子供達が我先にとお茶を渡しに来てくれました。私はこのことが嬉しく忘れられません。初めてのボランティア活動は多くの人に支えられながら無事終わりました。参加前に比べてボランティア活動に対する興味が強くなりました。

今回の活動は奇美グループ、学生サポーター、排灣族、ホームステイ先など多くの台湾の方々がもてなして下さいました。私はそのことからおもてなしの心と人との繋がり大切に気付かされました。今後は、もてなす側として台湾の方々に仙台に招き、元気な姿の仙台を見てもらいたいです。そして、感謝の想いを観光案内や仙台情報の発信などを通して伝えて行きたいと考えています。また、今後も中国語の学習を継続的にを行い、台湾と日本を結ぶ八田與一さんのような存在になりたいと思います。多謝大家。我收到愛了。



人と地震と

佐伯 真実

「この訪問団を通して、東日本大震災の経験と感謝を伝えたい」台南市青少年訪問団に応募した理由の一つに、その思いがあった。震災から三年半が経った。震災直後は震災の爪痕が痛々しく残っていた仙台駅周辺は、すでに震災前の景観を取り戻し何事もなかったかのように多くの人々を受け入れている。ライフラインはすべて復旧し、「大震災」は人々の記憶の中から

らだんだんと薄れていっている。

「貴妃烏龍茶」震災により発生したウンカの食害により、茶葉は甘い香りを持つこととなる。私は茶道体験でこのお茶を飲み、「震災により得たもの」であるということを知り強い衝撃を受けた。震災により日本が得たものとはいったい何だったのであろうか。震災以降、この訪問団をはじめ、トモダチプロジェクトなど「被災地の青少年」を対象としたプログラムがいくつか実施されている。「人とのつながり」「命の尊さ」「あらゆるものに対する感謝」形の無い物ではあるが、私たちは震災によって大切なことを強く学んだ。だが、そんな大切な学びさえも月日の流れと共に風化してしまっていた。震災を乗り越えたお茶との出会いにより、やっとそのことに気が付くことができた。

また、今回訪問した先々で「日本」による統治の痕跡をいくつか垣間見る機会があった。「烏山頭ダム」「原住民の集落」そこでダム、コーヒーの木や石造りの住居を見てお年寄りの話を聞くことで、確かにそこに「歴史」があったことを知ることができた。「戦争により得た物」は人々に記憶され語り継がれている。

では、「東日本大震災」で得た物を後世に伝えるにはどうしたらよいのか。それは、実際に被災した我々が「決して」その経験を忘れないことが一番重要だ。そして、私の場合であれば英語や中国語を身に着け世界中の人たちに伝えていくことである。訪問団を通じて貴重な経験と大切な気づきをくれた台湾の多くの方々に、今後は一生を通じて精一杯の恩返しをしていきたい。

「手が痛い、おねえさん、きれい！」佐々木菜摘

初めての飛行機、初めての海外、初めてのことだらけで不安と期待を胸に降り立った台湾。そこで過ごした一週間、たくさんの現地の人たちと出会い、人々の温かさに触れることができました。

中でも、ホームステイはとても貴重な経験になりました。サポーターのはるかの家にホームステイさせてもらったのですが、言語が全く分からない私がホストファミリーの方と会話をするときは、はるかの通訳が必要でした。その度に自分の無力さを感じ、行く前にもっと勉強すればよかったと後悔しました。しかし、台湾に来てから覚えた挨拶程度の言葉が通じたときの喜びを感じることができたり、表情やジェスチャーといった非言語のツールでのコミュニケーションの大切さを学ぶことができたりと、自分にとって新たな発見も多くありました。また、手料理をごちそうしてもらい、鳥の足や尻尾など、台湾ならではの料理を堪能することもできて、とても幸せでした！

同じように貴重な経験となったのは、原住民の小学校でのボランティア活動です。言葉が通じず、新聞紙を使った兜の作り方を説明できなかったり、大陸じゃんけんのルールの説明も伝えきれなかったりと、ここでも言葉の壁を感じました。また、子ども側から何かを話し掛けてきてくれても、言葉が分からず答えられなかったのが残念でした。しかし、一緒に楽しい時間を過ごしていくうちに、言葉を超えた交流もあるということに気付かされました。限られた時間のなかでの交流でしたが、別れる際に思わず涙しそうになるほど、深く子どもたちと交流することができました！この報告書のタイトルは仲良くなった女の子が覚えた日本語です。(笑)

今回の訪問は、現地の人々に直接感謝の気持ちを伝えることを目的としていましたが、それ以上に本当に多くのことを学ばせてもらいました。台湾のことがもっと好きになると同時に、日本の良さにも気付く事ができたので、もう一度台湾に行くときは自分の言葉で日本のことを伝えられるよう、勉強していきたいと思います！謝謝台湾～！



たくさんのありがとうを！

下川原 真子

私は今回の訪問団ではじめて台湾に渡りました。日本と似ているものはあれど、やはり外国。見るもの食べるもの新鮮なものばかりで、台湾をめぐって感じる刺激的で充実した毎日を送ることができました。

私が今回の台南訪問で感じたことは、台湾で出会った人々の優しさや思いやりの気持ちの深さです。台湾サポーターは慣れない日本語で会話をしたり、私たちに指示を出したりと、私たちよりもずっと大変だったと思います。しかしそれでも毎日笑顔で、目が合えば話しかけてくれて、なにかあれば気にかけてくれる。そして私たちを楽しませようという気持ちがいつも伝わってきました。ホームステイ先の方々も、私たちが何をしたいかたくさん聞いてくれて、どうすれば私たちがいちばん楽しめるかを一生懸命考えてくれるなど、些細なところからたくさん思いやりの気持ちが感じられまし



た。他にも、行くところ行くところで台湾の人々の優しさに触れ、帰ってきた今もありがたい気持ちでいっぱいです。

またもう一つ感じるがありました。国を越えて友情を育むことは簡単なことではありません。国が違うという環境で、言葉は大事なツールだと思います。しかしそれと同時に、言葉を使わずに感情を表現することの難しさや大事さも学ぶことができました。今回は台湾の人々の優しさと努力があったからこそ、帰ってきた今も連絡を取り合い、また一緒に、また会おう、と言い合える仲になれたのだと思います。これから国際交流を続けていくにあたって、もっと多くの国を知るために、台湾で学んだことや得たことを糧に努力していこうと強く思いました。あとはもちろん、ここで生まれたつながりを大切にしていきたいです。“行って終わり”ではなく“これから”を大事に、再びみんなに会える日を楽しみにしたいと思います。この夏、私に忘れられない日々を与えてくれたすべてに感謝します。謝謝！そして再見！

続けること

白鳥 沙也香



私は今回、台湾の文化を学び、それらをふまえた上で、東日本大震災での台湾の支援に対して感謝の気持ちを伝えたいと思い、台南市青少年訪問団に参加しました。この気持ちは、実際に台南市を訪れて、台湾のサポーターや樹谷会館の人々、ホームステイ先の家族、原住民の人々などに大変お世話になったことでさらに強まっていったように思います。しかし、訪問団として活動する中で、自身の言語能力の点から、なかなかその感謝の気持ちを伝えることができず、歯がゆく思っていました。そのように考えていた時、仙台市から贈った、先のガス爆発事故に対する高雄市への義捐金がとても感謝されたという話を川合さんから伺い、そうしたお返しの方もあるのだということに気付かされました。その時まで、私はこの訪問団で直接感謝を伝えるという点のみを考えていて、長期的な関係までは考えていませんでした。直に台湾の人と接する中で返していくだけでなく、日本にいる

時でも、折に触れて感謝の気持ちを伝え、何かが起きた場合には支援していくことで、感謝し続けていくというやり方もあるのだと知り、目が開かれたような思いがしました。

帰国したのちに行われた事後研修では、多くの団員が、絆を結び「続ける」ことの大切さと難しさについて語っていました。この、絆を結び「続ける」ということは、台湾と今後お互いに助け合える関係を築いていくうえでも、大変重要なものです。直接に会う機会が少ない中でも、お互いのことを気にかけて、交流し続けていくということが関係を結んでいくためには大切なのだと思います。今回、訪問団を通じて得られた出会いを大切に、永いつながりを築いていけるよう、今後活動していきたいと思っています。

最後に。サポーターのみお、ホストファミリーのあさみには本当に感謝しています。ありがとう！謝謝、再見！

台湾で感じた地元

菅原 沙友紀

今回の台南市青少年訪問団に参加し、数えきれない貴重な体験をすることができた。私にとって台湾は初めての海外で、出発前は不安も多かったが、一緒に行った仲間達や台湾サポーター、関わって下さった皆様のおかげで安心して毎日を過ごす事ができた。

台湾の方々は地元のように暖かく接して下さい、とても親日な雰囲気を感じた。テレビやラジオでも日本語で放送をされていて、日本にもそのような機会が増えれば海外に興味を持つ人が増えるのではないかと思います。

最終日前日、海にいったとき、地元の海を思い出して泣いてしまった。私の地元、岩手県陸前高田市には震災前、高田松原という砂浜があった。7万本もの松林と白い砂浜、綺麗な海、毎年夏には各地から海水浴に来る人が多く、賑わっていた。台南の綺麗な海と、みんなが楽しそうに遊んでいる姿を見て、人々が集まれるような市民の自慢の高田松原を、また取り戻したいと強く思った。すでに取り組みは始まっており、長い年月がかかることになるが、必ず復活させたい。

原住民の村では、社会の環境が変わる中でも、原住民の伝統を受け継いで、守っていこうとする姿勢が素晴らしい。原住民の歌や料理、儀式に文化などを若い世代にも伝え、私たちのような外部の人にも発信していた。私の地元にも、沢山の歴史と文化がある。しかし、少子高齢化が進み、震災がありで人が減り社会資源も無くなり、薄れつつあるものも多い。だからこそ、私たちの世代が伝統を続けていき発展させ、さらにその次の世代へ引き継いでいかなければならない。

台湾での生活は毎日が刺激的で、台湾の魅力を感じるとともに、日本の魅力にも気づく事が出来た。その魅力をどんどん人に伝えていきたい。また今回の訪問団を通して、沢山のつながりが生まれた。Facebook やメールを活用して、このつながりを大切にしていきたい。この事業に関わって下さった全ての方に感謝しています。本当にありがとうございました。



アツイ！第7期台南市青少年訪問団！！

鈴木 あゆみ

私は研修中「すごっ」「うまっ」「やばっ」を多用していました。とにかく毎日が驚きや感動の連続で、あっという間に過ぎ去った一週間。台湾の文化に触れ、美食を味わい、沢山の人たちに会いました。

台湾の研修を通して一番感じたことは、「世界は広くて狭い」という事です。世界には多様な文化や言語があって常識も異なる、けれど心の根っこにある「おもいやり」のようなものは世界共通なのだ、と身をもって経験しました。そして台湾サポーターの皆をはじめ、ホームステイ先の方や、原住民の方々のおもてなしに感動しっぱなし。また、台湾で出会った人たちはみんな気さくで優しく笑った顔が素敵な人たちばかりでし



た。クサイ台詞になってしまいますが、「笑顔は世界共通だなあ」なんてしみじみ考えて眠った日もありました。

そして、私に大きな刺激を与えてくれたのは同世代の日本の訪問団の皆、そして台湾のサポーターの皆です。一人ひとり、夢や目標があって、それに対して一生懸命努力をしている姿や研修中全体の為に働いている姿などを見て、私も負けていけない！という気持ちにさせてもらいました。一緒に活動をしたメンバーとはこれからも交流を続けて、切磋琢磨していきたいし、あの時はあんなことがあったね、と笑い合う仲間に入れればいいなと思います。第 7 期としてこの研修に参加できたことを本当にうれしく思います。そしてこれからは私たちが台南と仙台の交流を長く続けていく一助となり、今回の経験から学んだことを活かしていかなければならない、と強く思います。

それにしても台湾の夏は色々な意味でアツかった！9 月半ばの仙台は肌寒く、7 期と過ごした汗だくの一週間が懐かしいです。また、台湾に行く時はひとまわり成長した自分になります！最後に台南市青少年訪問団に関わった全ての方々、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします！謝謝！非常喜歡台灣！

今までの夏休みで一番充実した一週間！

鈴木 翔吾



今回第 7 期台南市青少年訪問団に参加させていただき、まずは S I R A の方々はじめ、関わってくれた全ての人々に心から感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。今回初めて海外に行き、またこのような訪問団として活動し、日常では体験できない初めての経験ばかりで刺激をもらう毎日でした。特に印象に残っているのは、障害者施設と小学校訪問のボランティア活動でした。どちらも限られた時間の中でしたが、障害者施設では知的障害者の方々や身体障

害者の方々、様々な障害をもった人たちがいました。まずはその方をよく知り、ありのままを受け入れることが大事だと感じました。どら焼きの生地作りの際には一人で行うには難しいことのサポートだったり、その方だけでなく多くの人とコミュニケーションをはかり、少しでも健常者と同じような社会生活を送れるようにと思いながらサポートを心掛けていました。最後には、口数や笑顔も増えて、バスで帰る時ずっと見送ってくれたことが本当に嬉しかったです。たくさんの勇気をもらいました。もう一つの小学校訪問では小学生のパワーが尋常じゃなかったです！子供はもともと好きでしたがこのボランティアでもっと好きになりました。子供たちはすごく素直で、言葉は通じなくても、一緒にワイワイし、また常に笑顔でいることで子供たちも笑ってしてくれることに本当に嬉しく思い、国と国が違えども心と心が通じ合うことができ、すごく感動しました。時間がなくなってきたころにはみんなが集まってきて自然と鬼ごっこが始まり、子供たちのパワーと笑顔にたくさんの元気をもらいました。この一週間の訪問団を通して、これから挑むことに何事にも積極的にいきたいと思いました。頭では理解していても、言葉に整理して何事も言えるようにしたいです。また考え方や視野の広さも 180 度変わった気がします。そして何より、人との出会いが大切で素晴らしいことかを再確認できた。その土地で会えた大切な仲間がいて、それぞれいろんな考えを持った人がいて、自分が失いかけていた大切なものを気づかされたし、一人の人間として大切な事を台湾で改めて教えてもらえました。これからもこの出会

いに感謝し、ここで終わるのではなく第7期としてずっとこの付き合いを大切にしていきます。
そして、川合さん守さん、台湾サポーターの方々、台湾、台南、高雄、仙台で関わってくださった全ての方々に心から感謝します。本当にありがとうございました。謝謝

感謝 仙・台・南 謝謝

高橋 唯

「人とのつながり」こそ、人生で最も大切な、人を幸せにするものではないか、と今改めて思う。私にとって台湾での七日間は、どんな言葉を借りても足りないほど充実した素敵な毎日だった。そして、その時間のおかげで今の自分が存在する。台南市青少年訪問団として本活動に参加したからこそ得られた出会いや、新たな発見・学びが多くあり、行く前と後での変化を成長と呼ぶことができるなら、自身は二つの意味において大きく成長できたのではないかと思う。

一つ目は異文化理解・交流を通じて寛容性が身に付き、海外への興味が高まったことだ。生まれ育った国や環境が違えば、食や生活習慣、歴史、文化、言語、信条が異なり、当然一人ひとりが様々な価値観や考え方を持つ。もしこのバックグラウンドの違いに気が付かなければ、「自分とは違う人」と相手を捉えて終わってしまうだろう。しかし今回、台南の歴史や伝統的な文化に触れ、ホームステイをはじめとした多くの人と深く交流を持つことで、この違いを身をもって感じ、その面白さを知った。この違いは私の視野を広げる新たな世界であり、これからも広げ続けたいと強く思う。また、相互理解のためには日本や自分の思いについて伝えることも求められ、自文化や自己を改めて見つめ直し考える機会にもなった。「伝える」という点では言葉が持つ力、伝えようとする姿勢を持つことの大切さや知識の必要性を感じた。今後は積極的にコミュニケーションをとる態度を養っていききたい。異文化交流には互いに相手を受け入れ認め合い、尊重することが重要だと感じた。

二つ目は人と人とのつながりの大切さとそれを継続する事の意味を知った点である。震災の支援に対し感謝の気持ちを伝えることはもちろん、その枠を超えて台湾の人々やサポーターの皆、スタッフの方々、七期メンバーと出会えたこと、過ごした時間は一生の宝物になった。第一期から九期まで仙台と台南を結ぶバトンをつなげ、その後も台湾との交流を持ち続けることが私たちの義務であり望むことだ。

だいすき台湾。



ドキドキ☆不安だらけの台湾生活 高林佳稀

正直、台南出発当日まで不安でした。同じ学校の人がない上に言葉の通じない国で生きられるのか、内向的な自分にとって大きな問題でした。しかし、日が経つにつれてその不安は無くなり、4日目には、「日本に帰りたくない、台湾で生きたい」と思うようになりました。僕の気持ちに変化したのは、台湾の方の優しさに触れたからです。台湾では、店員と客がフランクに会話をします。この点にはビックリしました。また、日本人だと分かると笑顔で返してくれたり、日本語で話しかけてくれることもありました。僕も嬉しくて、「謝謝！」と自



然と言うようになりました。

そんな、台湾で学んだことがあります。まず、「一期一会を大切にする」です。台湾では、現地のサポーターと行動しましたが、最初はあまり話せなかったため、仲良く話す頃には最終日を迎えてしまいました。自分の内向的な性格は、相手に迷惑をかけないという気持ちからですが、やはり積極的に交流しないと、短期間で仲良くなれないと痛感しました。

次に、「進んで行動すること」です。台湾では、日本では体験できないことが多々ありました。一番凄い思い出は、虫を食べたことです。普通に屋台にコオロギの串揚げが売っていました。（ですが、台湾の方でも好き嫌いが分かれるようです）食べてみると意外と美味しかったのが印象的でした。色々なことを経験した訳ですが、進んで行動してできたことでした。進んで行動することには勇気がいりますが、やってみると面白いことも多かったです。

台南での活動は、台湾の魅力を知っただけでなく自分にとって大きな成長になったと思います。台湾の魅力については、ほぼ伝えることができませんでしたがとても良い国だと断言します。将来、就職して世界で働くことになると思います。そのとき、台湾で仕事をするかは分かりませんが、台湾での生活を思い出し、国際人として頑張るだけでなく日本の文化も伝えられるような人間になりたいと思います。最後に、今回お世話になった方々に深くお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

温かい車内 立花 理砂

周りのみんなほど緊張をしていなかった。しかし、期待もしていなかった。期待をするとそれより予想を下回ったときに少しもの悲しくなってしまうから。

だけど、待ち合わせ場所でアリス（ホストファミリー）と会ったとき、その小さい不安はずっと消えてなくなった。アリスはとても明るくて30代の若目のお母さん、という感じだった。日本語の勉強中で、会話できるレベルではないけど、なんとかかたどどし日本語で一生懸命自己紹介をしてくれた。私はとても嬉しかった。アリスは自分があまり日本語を話せないからといって、日本語をよく知っている女性の友達2人と一緒に来ていた。この二人も笑顔の似合う、とてもいい人達だった。

アリスたちとの行動はいつも車だ。どこに連れて行かれるか、何も伝えられずいつも移動した。三人の中国語の会話は、楽しそうで何より聞いていて嫌じゃなかった。言いやすい単語のフレーズをとっさに真似して聞かせると喜んでくれて、意味も教えてくれた。車内はとても温かい空間だった。一番初めに行ったところは旧砂糖工場で、今はリメイクされて観光スポットになっていた。ちょうど日が暮れて暗くなってきた頃で、少し安っぽい電飾に照らされたそのリメイク工場は約2時間後にはすっかり虜になってしまうほど、魅力的なところだった。昔の工場を上手に残しつつ、自然と共生することも大事に考えられて作られていて、3歳くらいの子供から、おじいちゃん・おばあちゃんまで、そして若者たちにとっても楽しい場所だった。この旧砂糖工場をあとにして、近くの繁華街のお店に入って台湾風のお鍋を食べた。野菜や海鮮、豚のレバーなどの具材を一つ一つ頼んで煮込んで特製のたれにつけて食べるのだが、これがまた美味しい。でもその台湾の独特な香りのする専用のたれは好きじゃなかった。

次の日の朝はアリスがお手製で自慢のおかゆを作ってくれた。と、まだまだ書きたいことは沢山あるが、字



数の問題で省くことにする。

最後に、私はまた台南に行こうと思う。きれいなお花や人間味のある街並み、そして何よりもアリスに会えるのを楽しみに。



台湾からの3つのお土産 蔦沼 阿由子

8日間の台湾研修を終え、私は次の3つのことお土産にして帰国しました。

まず、人々の思いやりやつながりが生む力の大きさを実感できました。現サポーターに加え、過去のサポーターやその友人までもが、私たち訪問団のために尽力して下さる様子や、行く先々で歓迎して下さる現地の人々の温かさは忘れられないものとなりました。この訪問団も、協賛団体のご好意によって始まった活動であり、人々の思いやりの気持ちやつながりを頼りに今回まで続けてきたものであると言えます。このように台湾と日本の方々から「人」を大切に作る姿勢を学べたことは、本当に素晴らしい経験でした。そして私もこの訪問団のつながりの一部となったことに、喜びと責任を感じています。

また台南と仙台の交流についても考えました。訪問中、現地の方々から日本に、そして仙台に親しみを持って下さっていると感じる場面が何度もありました。それは仙台に住む私にとって嬉しい場面であった一方、台南の方が仙台を訪れた時に同じような印象を抱いてもらうことができるのか、という疑問もわいてきました。台南と仙台の交流をより活発にするために、まずは学生レベルで何らかの活動することができないか、訪問団の仲間と共に模索していきたいです。

最後に、仙台の他大学の学生同士が活発に交流し合うことの楽しさ、重要性についても気づかされました。普段私たち大学生は、他大学の学生と関わりを持つ機会は多くありません。しかし今回共に台湾を訪問した大学生が、私のしたことのないような経験を、それぞれの生き方をしている様子を見て、たくさんの刺激を受け取ることができました。せっかくの縁を無駄にすることなく、これからの台南と仙台のために、そして自分自身の成長のためにも生かしていきたいと考えています。

最後に今回の訪問を成功に導いてくださった関係者の皆様に、深くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

「サマー台南見聞録。'14」 徳永 匡臣

集団でかたまる女子ほど怖いものがない私にとって、事前研修ではこうべを垂れることしかできなかった。

出発当日、私の心の中を映したかのような曇り空の中、仙台を飛び立った。飛行機では唯姉と佳稀と「記憶しりとり」で時間をつぶし、桃園空港からバスで樹谷会館に行き、寝た。

二日目、台南観光。媽祖は偉い。午後は茶道体験をした。茶はもちろんのこ



とだが、詩も見事なものだった。意味はさっぱりだった。夜には、本場の点心料理を食べて私を含め皆ご満悦だった。

三日目、台南観光。八田與一は偉い。鄭成功も偉い。夜はホストファミリーアキラと合流。ホストファミリーアキラの家で美味しい夜ごはんを食べた。その後、夜市に連れて行ってくれたおかげで、着替えを樹谷にまるまる置いてきたぼくは次の日の変えのおパンツを入手できた。

四日目、台南観光。午前中はホストファミリーアキラと台南をめぐった。夜は活動班 1 班で夜市を回った。あの日食べた臭豆腐を忘れられない。あと、真子さんが雑食であるのに対して、たでさんとみーさんは好き嫌いの量が半端ではないことが印象的だった。

五日目、ボランティア。午前中、私はずんだチームとして尽力した後、ずんだを食べようと皆と合流したが、無慈悲にもずんだが粒 1 つ残っていなかったことが印象的だった。夜には結婚式を挙げた。きょんさんを嫁として迎えた。長年の思いがかなった瞬間だった。皆ありがとう。

六日目、原住民。この日のおひるごはんは「蜂と蜂の子の生姜あえ」。大量に盛ったやつゆるさねえ。午後は小学校。一真さんが大衆の面前でまさかのじゃんけんのコールを間違えたのと、それをずっと馬鹿にしていた太いガキンちょが印象的だった。

七日目、お別れの日。数年ぶりの海。午後のお別れ交流会は涙腺が爆発してしまった。その後台北に行き、余裕綽綽で徹夜を敢行した。

八日目、体調ゴミ。空港で最後の別れを惜しみ、台湾を飛び立った。飛行機では疲れから離陸前から到着まで爆睡してしまった。仙台空港に着き、電車に乗り、帰路についた。空は晴れていた。

今は 11 月 12 日（水）午前 4 時。つまり期限切れである。それも多くの文章を削り、そのたびに多くのひとの大切なエピソードを削ってしまったからだ。莫大な量の思い出たちを与えてくれた、SIRA、サポーターたち、第七期のみなさん、その中でも特に「いぱーん」の皆にこの場を借りて多大なる感謝と御礼を申し上げ、締め言葉とさせていただきます。あざす。非常感謝。

20年間で一番アツい夏

長岡 佑紀



“人と人との絆の力の強さ。その絆を維持し続けることの大切さ。”

今回の台南での経験を通して、私は以上のことを実感しました。

寝る間も惜しんで準備をし、旅のサポートをしてくれた台南のサポーターの皆さん。食べきれないほどの料理とお土産、そしてたくさんの観光スポットと一緒に回ってくれたホストファミリーの皆さん。皆さんは私にとって特別な存在ですし、今でも心から感謝しています。私の中では台湾＝ゆうな、はくりん…という認識になっています。だから台湾に何かあったらゆうな、はくりんたちのために何かしたいと思うだろうし、絶対行動を起こします。このような人と人との絆の力と

いうものが、国と国をつなぐ本質的な力なのだと思います。私も台湾の皆さんに同じように思ってもらえる特別な存在でありたいと思います。

また、この夏一番の素敵な思い出を提供してくださった SIRA の皆さん、そしてこの夏一番の素敵な思い出を

一緒に作った7期のみんなにも本当に感謝しています。出会えてよかったと心から思っています。皆さんとはいつでも会える距離にいますので、今後も積極的につながる機会を作っていきたいと思います。

以上のようなことを実感して、私なりに今後の目標を考えてみました。

“出会ったみんなと今後もつながり続け、台南と仙台的架け橋になる”という目標です。

台南のみんなとは facebook や LINE などでも今後もつながっていきたいと思っています。そして1年後に台南に会いに行きたいと思っています。そのために英語と中国語の勉強を始め(る予定でした)で終わらないようがんばります。

7期のみんな、SIRAの皆さんとは定期的に集まって親睦をより深めたいと思っています。ただ楽しいだけで終わるのではなく、台南と仙台をつながられるような要素を取り込みながら親睦を深めたいと思います。みんなとならできそうな気がするし、絶対できると思っています。

最後になりますが、このような素敵な機会を提供してくださった皆さんに心から感謝しています。本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

はるか♡ 長瀬 華奈

台南で過ごした一週間は、かけがえのない宝物になりました。ほぼ初めて出会った31人と共に、現地のサポーター達の支えによって無事プログラムを終えることができ、めいいっぱい楽しさと感動と学びを得ることができました。この気持ちは、経験した私たちにしか分かり得ず、そのすべてをお伝えすることはできないと思います。それほど充実した一週間を過ごすことができました。このプログラムを通して出会えた皆様方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

特に私の班のサポーターであるはるかに出会い、共に時間を過ごせたことが、今回このプログラムに参加して一番の喜びです。はるかはどのサポーターよりもお調子者で、とても日本語が上手な女の子です。どんな質問にもきちんと答えてくれて、常に詳しくて面白い情報をくれて、何より私たち3班のムードメーカーでした。彼女のおかげで毎日が楽しく幸せでした。彼女にまた是非会ってまた一緒に語りたいです。



正直に申しますと、このプログラムは濃い毎日過ごし、国境を越えた台南の皆様方のあたたかさを感じる事ができるが故に、震災の感謝を伝えるという当初の「目的」と、台南の皆様と直接お会いするという「手段」が逆転してしまいがちになってしまうかと思っています。私はそれを問題視し、腑に落ちることがなかなかできず、応募の際や研修時にとっても悩みました。しかし帰国してから振り返ってみると、クリアな気持ちで一週間を過ごすことができていました。それは、ボランティア活動の際に言葉が通じなくても非言語コミュニケーションで通じ合ったことや、心から真摯にサポートしてくださった台南サポーターの皆様方のおかげです。そのことに気づかされたことは私にとって大きな財産です。今後はこの経験を糧に、専攻している観光学にてこのプログラムの内容を題材にして研究に取り組み、無償の支援やボランティアについて考えていきたいです。もちろん、今後もこの縁を大切に継続させ、他言語の習得にも励みたいです。

異国の地、経験と成長 芳賀 真

はじめに、この度参加させていただいた台南訪問プログラムに携わった方々に向け、文書中にて大変恐縮ではございますが、多大なる感謝を申し上げます。

それではまず個人的な報告からさせていただきます。帰国後最初に感じたのは達成感よりも寂しさでした。台湾の自然豊かな土地、心優しい人々との別れは、ただ涙するものではなく、「絶対にまた来る」という新たな決意を生みました。たった一週間ではありましたが、私にとっての台湾は素晴らしく魅力的であったと感じました。総括的ではありますが、以上が私自身の率直な感想になります。正直に申し上げまして、ここでは語り尽くせないくらい様々な想いがございますが、今回は割愛させていただきます。ですが、その分といたしまして、訪問団全体の報告をより密にさせていただきます。

台南地域を中心とした歴史や食文化を学び、障害者や子どもを対象としたボランティア活動、そして原住民の方々との交流、普通の旅行では体験できない貴重な時間を過ごすことができました。その中で感じた団員の成長にはとても感激しました。私自身、学生の立場なので、大変恐縮ではございますが、お話をさせていただきます。この訪問団として参加した学生、特に現在大学一年生の年代にあたる学生の成長はめまぐるしいものがあつたと感じました。活動全体を通して、団長はもちろんですが、その活躍に続くように多くの学生が積極的に行動し助け合う姿が徐々に増えたことが見て分かりました。その成果のゆえのプログラム成功だと思える程です。

まとめといたしまして、この旅を通じて感じた思いをもっとより多くの方々に伝え、意欲的に参加していただけるように広報していきたいと思っています。



また、台湾へ行き台湾(笑) 兵藤 一真



自分が今回の第七期台南市青少年訪問団に参加させて頂いたことにより、訪問団のメンバー31人や台湾の学生サポーター、SIRAの職員の方や現地で出会った人々など、本当に多くの人に出会うことが出来ました。またこの一週間で出会った方々との大切な思い出も作ることが出来ました。今回のこのプログラムに関わったすべての皆さんに感謝したいと思います。本当にありがとうございました。あの一週間は非常にハードスケジュールではあったけれど、本当に充実していて良いものでした。個人的に施設

と小学校のボランティアはとても勉強になりました。自分は以前からさまざまなボランティア活動によく参加していたこともあり、自信を持って今回の台湾でのボランティア担当になりました。ボランティア当日の反省すべきところはたくさんありましたが、楽しんでいてくれた人たちを見て改めてやりがいを感じ、また日本と

台湾の絆がまた深まったように感じました。ボランティアの準備はとても大変でしたが、活動を終え、自分はこのプログラムでのボランティア活動はとても重要な活動だと感じました。

あの1週間でやはり特に楽しく思い出深かったのが、訪問団メンバー、台湾の学生サポーターとの交流です。どこへ行くにもみんな一緒に、泊まるところも皆同じだったので、たった一週間でも深い絆が生まれました。最初は皆ぎくしゃくしていても、皆で台湾観光してうまいもの食べてお茶飲んでホームステイして田植えして弓射って山登って結婚して踊って呑んで海入ってアルバム作って歌って泣いてさよならして、それだけで深い繋がりが出来たのは確かだと思います。今回自分が一番得たものといえば、台湾という国と人が好きになったことが一番だと思います。恐らく皆また台湾へ遊びに行くだろうし、あっちからも何人か遊びに来ると思います。この訪問団で得たこの繋がりは自分にとって財産です。これからもっと台湾を好きになりたいし、皆にも会いに行きたいです。何より何年たっても連絡を取り合う仲でいたいです。それくらい本当に濃い一週間でした。機会があれば皆でまた、台湾へ行きたい台湾(笑)

台南と出会って 古屋敷 美央

私は今回の第7期訪問団に参加して、初めて知ったこと、学んだことは本当に数え切れないほどです。今まで19年間、日本を一步も出ずに生きてきて、海外に行くのが初めてだったということもあるのですが、見るもの聞くことすべてが初めてばかりで、逐一感銘を受けてばかりの毎日でした。特に印象深く私の記憶に残ったのは、やはり台湾の原住民の



方々との交流と、サポーターのみんなとの交流でした。言葉はあまり通じなくとも、(本当は通じていた方が良かったのですが) 原住民の方々は一生涯懸命私たちのために自分たちの話を聞かせてくれて、実際に体験もさせてくれました。台湾に行ってほとんど謝辞しか言うことができなかった私にとって、“マサル”や“マリマリ”などの、それぞれの原住民たちの言葉での“ありがとう”を音にして伝えることができたのがとても嬉しく感じられました。その後、原住民の方々の心の込もった料理と共に、踊り、騒ぎ、お酒を飲み交わしたあの夜は、生涯忘れられない一夜となりました。サポーターのみんなとは、初めて顔を合わせた時の緊張とワクワクした気持ちや、思っていたよりもずっと日本語が通じて、優しい人たちばかりですごく安心した気持ち、一緒に過ごした楽しい時間、別れの寂しさは今となっても昨日の出来事のように鮮明に思い起こすことができます。特に4班であった私にとって、ゆうなはとても大切な存在となりました。ゆうなは優しくよく気がつく一方、素直で思ったことがすぐ顔に出るような、本当に親近感の湧く人だったので、国や言葉が違っても、こうして話して一緒に過ごせばこんなに仲良くなれる、ということを私に教えてくれたように思います。ゆうなとは、最後の新幹線の台中駅まで一緒に、別れが他のみんなよりは少しだけ遅かったのにしても、それでも後ろ髪を引かれる思いでいっぱいでした。今回の訪問は私にとっての生涯の糧であり、大切な思い出ばかりです。この貴重な体験を大切に、これから先の人生も台湾という国と日本との架け橋となり続けていきたいと願います。

3か月前と違う自分 堀籠 莉奈

台湾を訪問して、台湾は「日本人」にではなく、「人」に優しく、あたたい国だと思いました。「トモダチ！」と声をかけてくれた市場のおばちゃん、太鼓の達人を披露してくれた店番のお兄さん、ホームステイ先の家族…台湾の方々はみんな自分を歓迎してくれて本当に嬉しかったです。



特に印象に残っていることは、ツアー三日目に訪れた赤崁樓での出来事です。道路で、優しそうなおじいさんにパンフレットを差し出され、赤崁樓に関するものだろうと思い何気なく受け取りました。ページをめくると、そこは顔や身体がボコボコになる程の怪我を負い、苦しんでいる人々の写真で埋め尽くされていました。このパンフレットの意味することは、中国からのいじめや差別への不満を表していて、台湾サポーターのミオは、「わざと中国人が多く来る観光地で配る。わざと日本語で書いたものを日本人に配る。」と教えてくれました。日本語で書いてあるということは台湾の人から日本人に対するメッセージです。これは、日本にいても受け取ることはできません。中国と台湾の関係を目の当たりにして、実際に台湾に行かなくては気づけないことがたくさんあること、また、その気づきを自分の学びや、これからの経験につなげることが大切だということに気づきました。台湾のいいところをたくさん見ることができましたが、それだけでなく日本にいたら見えない面を見ることが出来て勉強になり、目を向けるきっかけになりました。

このツアーは、サポーターを出来る人材が台湾にいるからこそ成り立つのだと感じました。自分と同じ歳の子が、好きな国の言語を使ってツアーのサポートや通訳を出来ることに驚くとともに、刺激を受けました。好きな言語を使って頑張っているサポーター達はすごくキラキラして見え刺激をもらいました。

今回のツアーに参加するまでは、「台湾」という名前だけを知っていただけだったように感じます。ツアーを通して台湾の中身を知ることが出来ました。台南市青少年訪問団に応募した3か月前と違う自分になりました。3か月前よりも語学に対する意欲が高まり、台湾が好きになりました。大切なことは、台湾に行って、感じて、学んで、終わりにしないことだとこれからも台湾と日本をつなぐ架け橋として交流をつなげ、深めていきたいです。

海を越えて 眞壁 優

今回、台南市青少年訪問団第7期として参加できたことは、自分にとって大きな学びと成長、そして自分を発見することができました。事前研修、そして台南での生活はとても充実し本当にあっという間の時間が過ぎて、多くの素敵な思い出を作ることができた一週間となりました。

研修の中でも、障害者施設でのボランティアは海外で障害を持つ方との交流を以前からやってみたいと思っており、今回とても貴重な体験ができました。共通言語が違く、コミュニケーションをとることが難しい中でも、国境を越えての交流が出来ることの素晴らしさを実際に感じる事が出来ました。日本からのまったくわからない私たちをととても喜んで暖かく出迎えて下さったこと、用意した歌を真剣に聞いて下さったことが障害者施設でのボランティア活動で一番心に残りました。笑顔の持つ大きな力も感じました。

次に、台南での異文化体感することが出来たことです。食、一般の生活、原住民の生活体験などを通して今までにないことを体験できました。以前までは虫やあまり食べない動物に抵抗があり無理だと思っていました。しかし、挑戦することによって新しい発見をする面白さをしました。最初から無理と考えては何も分からないということを学びました。

最後に、台南のサポーターの方との出逢いです。サポーターのみなさんが頑張ってくれたおかげでこのような素晴らしい研修が出来たのだと思います。年、学校、国が違うけれど大切な友達がたくさんでき、さまざまな考え方を得ることができました。

台南で過ごした一週間の中で、第七期のメンバーを始め、台南のサポーター、多くの人と出逢い、人の温かさを感じました。温かい心を大切に、今回の出逢いをここで終わらせず繋げ、これからも人と人との出会いに感謝していきたいです。



喋らなきゃ、もったいない！ 横字 史年

自分自身の理解の範疇を超えた、もしくは非日常的な空間に身を置いていると脳が認識したとき、ヒトは緊張し、警戒し、必然と表情はこわばる。それは初対面の人と出会ったり、自分が対応に困る人、つまり苦手なタイプの人、例えば子供だとか、言葉の全く通じない人だとかと触れ合うときに最も起こり得る人間の自己防衛本能的な反射である。そんなとき、大多数の日本人と同じように困り顔をして、誰かが助けてくれるのを待っていていいのか。そのことを気付かせてくれたのが、今回の第七回台南市青少年訪問団である。

ケチな話をする、バイトもしてない貧乏大学生ではまず手が届かないであろう台湾旅行なのだから、まごまごしている時間を、なにかで楽しむ時間にする方がオトクである。観光バスの中も、新幹線の中も、せっかく友達が狭い空間の四方八方にいるのだから、楽しいお喋りでもしなければもったいない。どうせ帰国したらレポートだの勉強だのに追われるのは自明の理であるから、言葉の通じない台湾人だろうが、原住民の村の小学校一のひょうきんものと遊ばなければなかりうが、なにもわからず福祉施設で初めてのボランティア活動しようが、海軍の狙撃部隊のあんちゃんの家ホームステイしようが、延々とお茶の大家のおじさんに漢詩を聴かされようが、車の中で同じ曲を永遠とループされ気が狂いそうになろうが、口をすっきりさせようと買った麦茶やコーヒーがすべてねっとり甘ったるだろうが、楽しまなければもったいない。言葉が通じなければ、踊ればいいのである。ひょうきんものと遊ぶなら、こちらも童心にかえって同レベルになればいいのである。ボランティアをするのなら、むこうが好きそうなものを見つけてそれを一緒にすればいいだけである。おじさんの漢詩を聴かされたときは、うんうんと満足そうに笑顔でうなずいてやればよいのである。海軍のスナイパーと出会ったら、その筋肉を褒めてやればいいのである。ひたすら同じ曲が流れたら、その歌を歌ってみればいいのである。飲んだものすべて甘ければ、臭豆腐を食べればよいのである。（もっと悲惨な状態になるかもしれないが、少なくとも甘ったるいのだけは忘れることができよう。）ほら、全く話す必要がない。日本でないのだから、体裁を繕わなくてもよいのである。誰も自分のことをお喋りだとか、コミュ障だとか、あれが下手だこれが良くないなどと批評したりはしてこない。みんな、なにかに必死だからそんな余裕など無いのである。

あらためて思い出すと、まるで一週間にその生命のすべてを賭して鳴くセミの如く、自分はよく喋った。特にグループの中では、みんなノンストップでくだらないことを言い合った。いい年をした大学生がまるで小学校の遠足みたく、意味不明なことで腹を抱え笑った。お互いに自分の体面を気にせず、そりゃ今思うと失礼なこともあっただろうが、本当に心の底から笑い、そしてそろそろ絆が目に見えるのではないかとというほどに友情を深めた。お酒の力を借りずに培った楽しい思い出はだれも忘れない。烏山頭ダム、ベジータ、臭など、赤の他人からすると何の関わりも見いだせない言葉であるが、自分らにとっては、いまでも笑い無しには語れない重要なワードである。



自らの本能では抵抗をおぼえる出来事も、自身の勇気と考え方をちょいと変えるだけで最高の思い出へと変貌を遂げさせる力を人間は持っている。それを教えてくれたのが、この第七回台南市青少年訪問団かもしれない。

やっぴ!(^)! おーぷんゆあまいんど！

吉野 日奈子



題名はすごくアブノーマルな感じではありますが、本文はいたって真面目に書かせていただきます。七泊八日の台南市青少年訪問団から既に一週間ほどたった今、旅を振り返るとどのくらい素晴らしい経験をしたのか冷静に感じる事ができるようになってまいりました。この経験を通して学んだことはたくさんありますが文字数が限られているということで三点に絞りたいと思います。

一つ目は、選りすぐりせずに何事にもチャレンジすることで広がる可能性です。今回の訪問団の応募にチャレンジしなければたくさんのことは学べませんでした。どうせ応募しても落ちるだろう・・・など考えたり、失敗するだろう

など考えたりするのではなく当たって砕けろ！ くらいの意気込みでチャレンジしてよかったと思います。また選りすぐりする過程はなくしたほうが良いと思いました。私たちには何が必要、不必要か分かりかねることは出来ないと思ったからです。目の前のことに常にチャレンジすることで新たなものが見えてくると思いました。

二つ目は、言葉が通じなくともほかの表現方法で伝えることができるという楽しさです。今回あった人々は年、文化、言語、体の機能などが異なる人でした。しかし一生懸命表情を作り身振り手振りや、拙い共通言語でコミュニケーションを図ることができました。言葉では伝えられないようなことも伝えられたような気持ちがありました。一生懸命伝えようとすればきっと伝わるのだろうなと不思議な感じになりました。伝えるのに苦労した分伝わった時のうれしさは大変大きかったです。

三つ目は、多種多様な人が集団となる時の強さです。今回の旅ではかなり大勢のチームでした。大勢いる中で自分はどのように活躍できるかということを常に念頭に置いて行動しました。自分の苦手なことは得意な人が助けてくれる。私が得意なことは率先して行う。このようにして強い集団はできるのだなとおよそ一週間で感じました。

普段とは違う条件に置かれたことで学べたこと、本当にたくさんありました。上記は堅いことを言っていますが本当ははっちゃけていてすごく楽しかったです☆

サポーター からの メッセージ





七期のみんな、元気？1ヶ月くらい経ったけど、みんなとの一週間はまるで昨日のことのようだ。サポーターのサポーターとして、七期は三回目だったけど、今回だけ班があったから、ある意味でこれこそ初め(一回目)だなーと思ってる。この活動のお陰でみんなと出会えて友達になった同時に、サポーターしてる間に自分もたくさん学んできた。サポーターは台湾の温かさをみんなに伝える仕事だと思ってたけど、それだけじゃなくて、みんなの気持ち、日本からの温かさも受けて、架け橋になるのこそ、サポーター。今はこう信じてる！だからこれからもこの信念を持って頑張っていく！

みんなに会いたい、日本に行く時は連絡するよ！待っててね！

1班 はくりん（吳柏霖）



この活動に参加できることは本当にうれしかったです。七期の皆と会えることも良かったと思って、皆と一緒に思い出も一生忘れられません。私の日本語はそんなに上手じゃないから、いつも七期の皆とちゃんとしゃべれるのかどうかすごく緊張して心配でした。

しかし、七期の皆は優しくて親切で接していましたから、すごく感謝しています。今回の活動はたぶん足りないところもありますが、皆一緒に笑ったり、日本と台湾の距離を縮んだりすることは大切だと思います。

今後も日本語を一生懸命勉強して、皆と一緒に台日友好の架け橋になります。

2班 みお（邱科瑛）





ずっとfacebookとラインで5期と6期の写真を見て、期待してて、ついに、7期のサポーター達の出番だ！(๑ω๑)
前の日からずっと緊張してて、みんなに会ったとき緊張感とか心配とか一瞬でなくなった！

7期のみんながチョー優しくて、いっぱい助かった。
私たちが下手な日本語を話してたときもちゃんと聞いてくれて、通訳したときも応援してくれて、ボランティア活動で真面目に準備して一生懸命にしていた様子を見て、マジで感動してたよ(T~T)
一週間で毎日忙しくてめっちゃ疲れたけど、みんな絶対いろんなことを習ったでしょう？私もいろんなことを習ったよ！

時間のコントロールとか活動の設定とかまだまだ改善できることがあるけど、みんなよ——く頑張ったことが感じられる。

3班のメンバーで、そして7期のみんなに出会えて本当に本当に本当によかった！（大切なことから三回）

みんな元気でね♥また日本で会おうね♥一緒に飲もうね♥

3班 はるか（許菡芸）

4班のみんな、久しぶり～ゆうなでーす(´▽`)ノ
イベントからもう一ヶ月になってしまって、
信じられないほどはやくて、なんとなく悲しくなってきました
いまはパソコンの前に座ってて、内容を考えながら、4班のみんなとの
思い出が次々湧いてきました

あの一週間、私は初心者としてみんなのガイドした時、いろんなこと
を助けあって、理解してくれてありがとう>_<

この一ヶ月になんか忙しくて、いつも急に姿が消えてしまって、うまく
みんなと話し合わなかった本当にごめん、もしみんな時間があれば、
この後時間を作って、ちゃんとみんなと話したい～

これからも一緒に頑張って、各自の進めたい道を進もう!! 私も頑張り
続けて、いつか必ず日本へ行き、みんなと会います

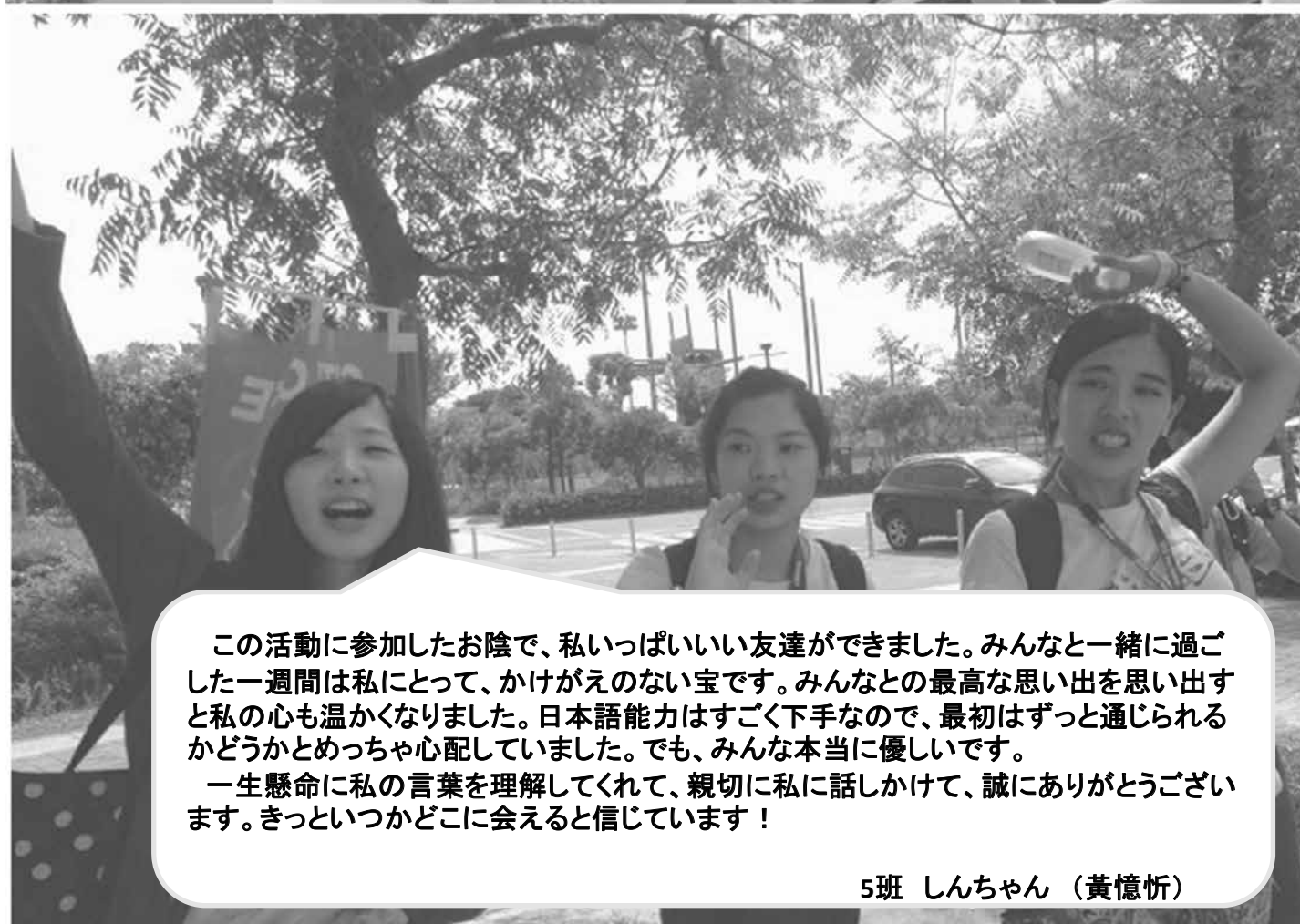
4班 ゆうな（游方萱）



この活動に参加したお陰で、私いっぱいいい友達ことができました。みんなと一緒に過ご
した一週間は私にとって、かけがえのない宝です。みんなとの最高の思い出を思い出
すと私の心も温くなりました。日本語能力はすごく下手なので、最初はずっと通じられる
かどうかとめっちゃ心配していました。でも、みんな本当に優しいです。

一生懸命に私の言葉を理解してくれて、親切に私に話しかけて、誠にありがとうございます
ます。きっといつかどこに会えると信じています！

5班 しんちゃん（黃憶忻）





みなさん一久しぶり！さくらです。
早いですね、みんなが日本に帰ってからもう二ヶ月も過ぎました。今思い出しても夢みたいなの一週間でしたね。
みんなが日本に帰ってもよく集めたり遊んだりするのを見て本当に羨ましいですよ。そして必ずサポーター達にテレビ電話をしてくれて嬉しかったです！ありがとう！
朝目覚ましてLINEのグループでみんなが盛り上げて話してるのも私の小確幸になりましたよ。
友達と離れても連絡取るのが一番良い友情だと思います。一週間しか一緒に過ごさなかったが本当にみんなと親友になれて良かったです！
また日本でも台湾でも一緒に遊ぶのが遠くないから楽しみにして行きましょう！

6班 さくら（鄭可櫻）



私はつばさです。今回七期のサポーターを担当して本当にうれしかったです。第一日目、マスクをかけていて、ちっちゃい穴から皆さんの顔をはじめて見ました。そのときの緊張感は今までもはっきり覚えています。最初はあまり皆さんのことを知りませんでしたが、バスでいろいろな話をしたり、自撮りをしたりして、だんだん仲良くなりました。そのときから、皆さんはよく私と自撮りをして本当に楽しかったです。

私は日本語がうまく話せなくても、いつも聞いてくれてありがとう。この短い一週間一緒に経験したこと、行ったところ、すべてのことはいい思い出になります。私は一生忘れません。またいつかどこで会いましょう！

7班 つばさ（謝其湘）

同行者より

今回は私にとって2度目の台南訪問でした。最初の訪問は、2012年2月に実施された第1回訪問団派遣に同行し、震災復興支援としてこの青少年受入事業の企画に携わった台南の関係者に仙台側を代表して御礼を申し上げるための訪問でした。それから2年数か月を経ての訪問でしたが、青少年受入れに対する台南の皆様の熱い思いは、いささかも変わっていないことを実感することができました。

受入れプログラムについても、活動内容に工夫を凝らし、回を重ねるごとに良いものとなっています。今回も古都台南の史跡めぐりや先住民族の集落での交流、さらにはホームステイ体験など大変充実した内容で、仙台の若者達は多くを学ぶことができたものと確信しております。また、全ての行程に同行してくれた台南の学生サポーターの皆さんとの交流は、双方の若者達にとって、大切な心の財産となったのではないのでしょうか。

第7期団員の皆さんには、今回の訪問で出会った人々との絆を大切にしながら、国際的な感覚を涵養していただきたいと思います。そして、これから仙台と台南の架け橋として活躍していただくことを期待しています。

今回の訪問では、8月1日に発生した台湾・高雄市でのガス爆発事故被害への支援として仙台市民から寄せられた募金を高雄市政府に届けることができました。ご協力いただいた市民の皆様、募金活動を発案し中心となって活動した若者達に心よりの感謝を申し上げます。

最後に、仙台の青少年の受入れに大変なご尽力をいただいた奇美グループ並びに台南市政府関係者の皆様、台南のサポーターの皆様方、そして長年にわたり仙台と台南の交流活動を担ってこられました仙・台友好交流促進協会の皆様方に厚く御礼を申し上げます。また、大変忙しいスケジュールの中で、台南の暑さにも負けず一生懸命交流活動を行ってくれた第7期の団員の皆さんにも、心からの拍手を送りたいと思います。



(公財) 仙台国際交流協会
副理事長 守 修一

これまでの台南市青少年訪問団に参加した学生たちを見ていると、渡航前と帰国後の変化に驚かされます。元々、志も高く学校以外のことにもアンテナを高くしているからこそ、この訪問団にも申込みをしてくれたと思いますが、それにしても、そのやる気、成長ぶりには目を見張るものがあります。台湾、世界への好奇心、考えるだけでなく実際に行動したり、外に飛び出して行ったり、新しいことに挑戦したり・・・進学や就職の報告だけでなく、自分の取り組んだ活動の報告にわざわざ来てくれる学生もいます。「台南市青少年訪問団に参加して、私変わりました！」

そんな時、この事業の担当になれたことを本当に嬉しく、光栄に思いますし、仙台の学生にこんな素晴らしい機会をくださった奇美グループの方々、台湾のみなさまに感謝せずにはられません。

事業にご協力いただいた全ての方に感謝いたします。ありがとうございました。



(公財) 仙台国際交流協会
総務企画課企画係 川合 朋子

台湾 高雄市で発生したガス爆発事故のために

第1～7回訪問団団員が一致団結！

2014年8月1日に台湾・高雄市で発生したガスの爆発事故。

ニュースを聞いたこれまでの訪問団のメンバーが、お世話になった台湾の方々のために、今こそ何かしなきゃ！と立ち上がり、有志による募金活動が行われました。

募金活動は、8月18日に仙台市の東二番町通りと中央通りの交差点付近で行いました。

たくさんの市民の方々にご協力いただきました。ありがとうございました！！



第1～7回までの団員はもちろん、仙台在住の台湾人、ご厚意で手伝ってくださる方々など、総勢40名以上が参加しました。

国際センターに設置した専用募金箱や、銀行振り込みで募金してくださった方もいました。



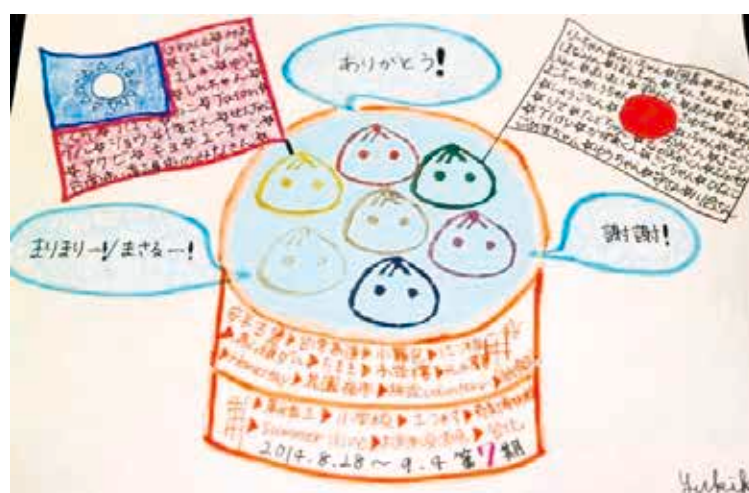
2014年8月29日 高雄市政府にて

義援金

314,000円 + 371台湾ドル

仙台からの義援金は、第7回訪問団が台湾に訪問中、同行職員が直接高雄市政府に届けました。

高雄市のみなさん、復興をお祈りしています。



送愛到仙台



第7回台南市青少年訪問団 報告書

編集・発行 公益財団法人仙台国際交流協会

〒980-0804 仙台市青葉区大町2丁目2-10 仙台青葉ウイングビルA棟11階

TEL:022-265-2480 FAX: 022-261-0611

E-mail: plan2@sira.or.jp HP: <http://www.sira.or.jp>
